

43

156

Ⓜ



始



工-V 33

朝鮮國眞景

43
156

東原
書藏



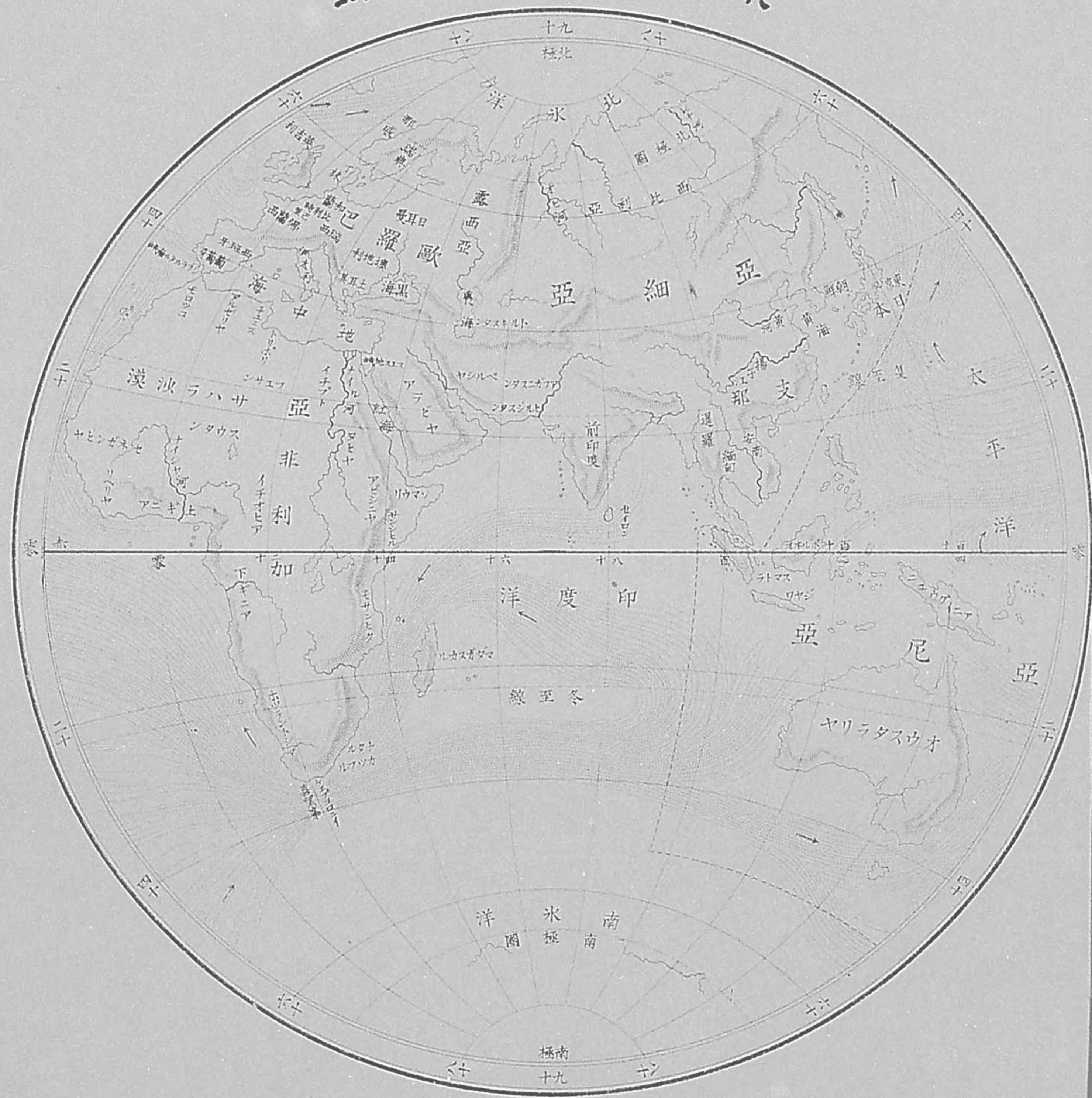
191682/TTV.



朝鮮國眞景寫影之解

朝鮮國ハ亞細亞洲中の一部にして西曆紀元前千貳三百年の頃支那の箕子と云へる人を朝鮮の王とす其墳墓は今尙義州牡丹岡にあり久しく其子孫國王たりしが後三國に分れ馬韓辨韓辰韓是れなり後又其三國も亡ひ新羅高麗百濟となり紀元千三百九十二年李氏三國を一統して古の國號朝鮮に復し之れを李氏朝鮮と云ふ亞細亞の東方に位し半島國たり其境界ハ北俄羅斯を背とし南日本を面とす東ハ日本海に瀕し俄羅斯の浦鹽斯德港に隣る西ハ黄海に臨み支那盛京省に接續し芝罘天津に向ふ其亞細亞に於ける位地を示さん爲め爰に東半球の地圖を掲げん

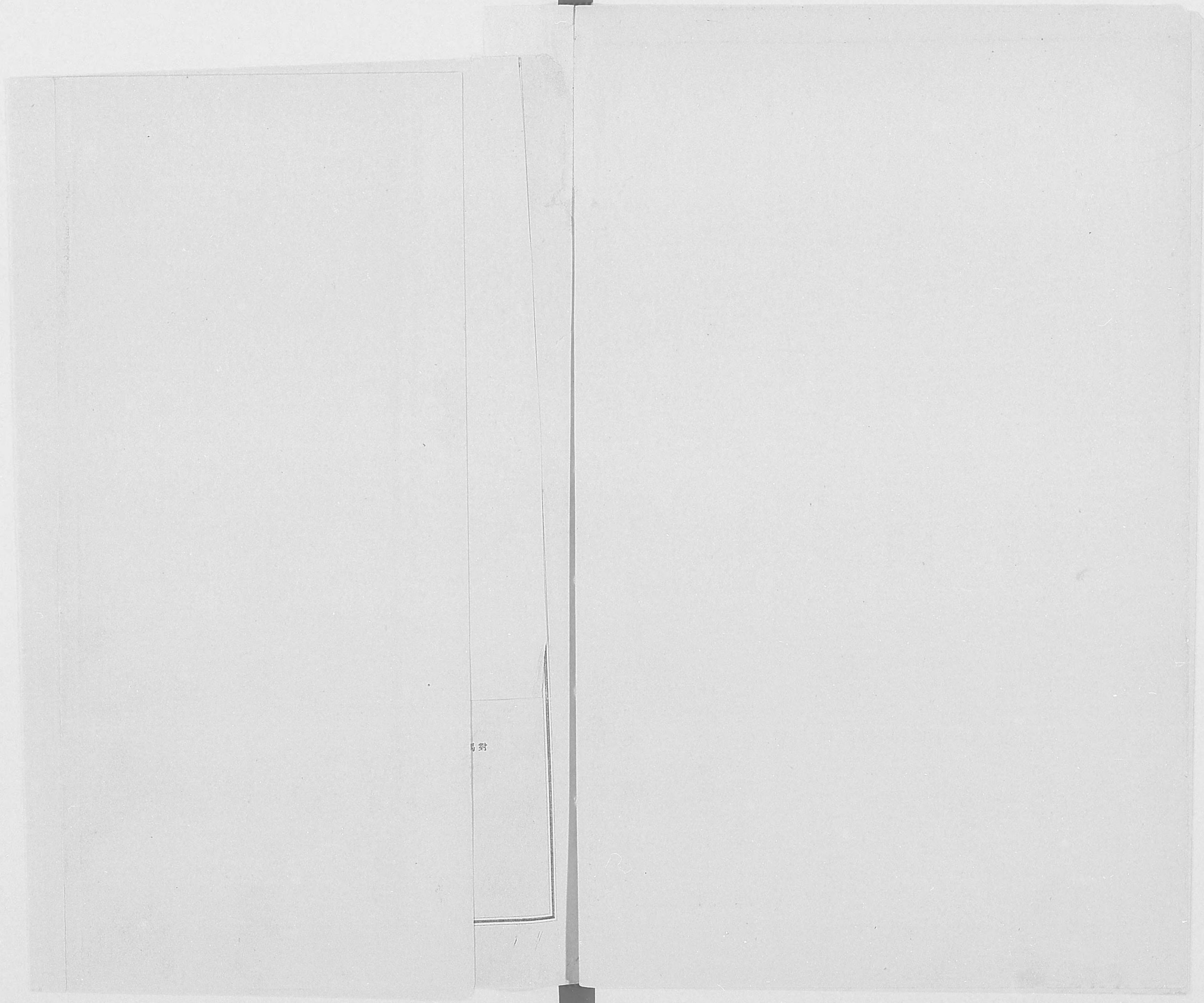
東 半 球



朝鮮國の位地は北緯三十四度より四十三度に跨り東經百二十四度より百三十二度に彌る其長さ南北四百六十英里幅員の廣き所にして百三十五英里なり

全國の面積ハ八萬二千方里環海里數千七百四十英里にして國を分つて八道とす京畿道忠清道全羅道慶尙道咸鏡道江原道黃海道平安道是れなり

人口ハ第二十七回「ステーツメンズ、イヤールブック」(政治必携萬國年鑑千八百九十年ニアリ)の掲ぐる所によれハ戶數二百三十五萬六千二百六十七戶男五百三十一萬二千三百二十三女五百二十萬〇八千九百三十七人なり是を一方里の人口平均にすれば百二十人と四分なり斯く人口の少きものハ種々の原因ある中に就て最も適切なるものハ人民の懶怠貧困且つ疫癘の患ハ收税の苛酷及ハ官吏の掠奪に依つて戶税を遁れんと欲し或ハ調査の不完全等にあり爰に朝鮮の畧圖を掲げて以て一覽に供せんとす



李氏朝鮮に王たりしハ西曆紀元千三百九十二年高麗の榮祿大夫
名官子春の子李成桂自立して王位に登り三韓の地を一統し之を太
祖康獻王とす爾來五百餘年三十一世今王名ハ熙字ハ聖臨興宣大
院君李昺應の二男にして千八百五十二年七月二十五日誕辰千八
百六十三年登位王妃を閔氏と云ふ驪城府院君致祿の女なり世子
名は炤號を君邦と稱し千八百七十四年二月八日誕辰なり

京城眞景

京畿道漢陽に都し京城と云ふ仁川港の東十七英里餘にして
北緯三十七度三十分東經百二十七度四分東西凡三十丁南北
二十丁市内を分つて五區とす中部八坊九十一契東部七坊四
十三契南部十一坊七十一契西部九坊九十一契北部十二坊四
十四契其四分の一は新舊兩大闕各官衙并に王族の邸宅なり
市中の大路は巾五十六尺中路は十六尺別徑は十一尺なり戸
數四萬六千五百六十五戸人口二十萬〇二千六百三十九人あり



り
京城の地は四方に強壁を築きて城郭を爲す周圍凡十六英里
高さ平均十尺なり各所に樓門を設く樓門の數八ヶ所あり興
仁崇禮敦義肅靖惠化光熙昭義彰義の八門なり

漢陽京城圖

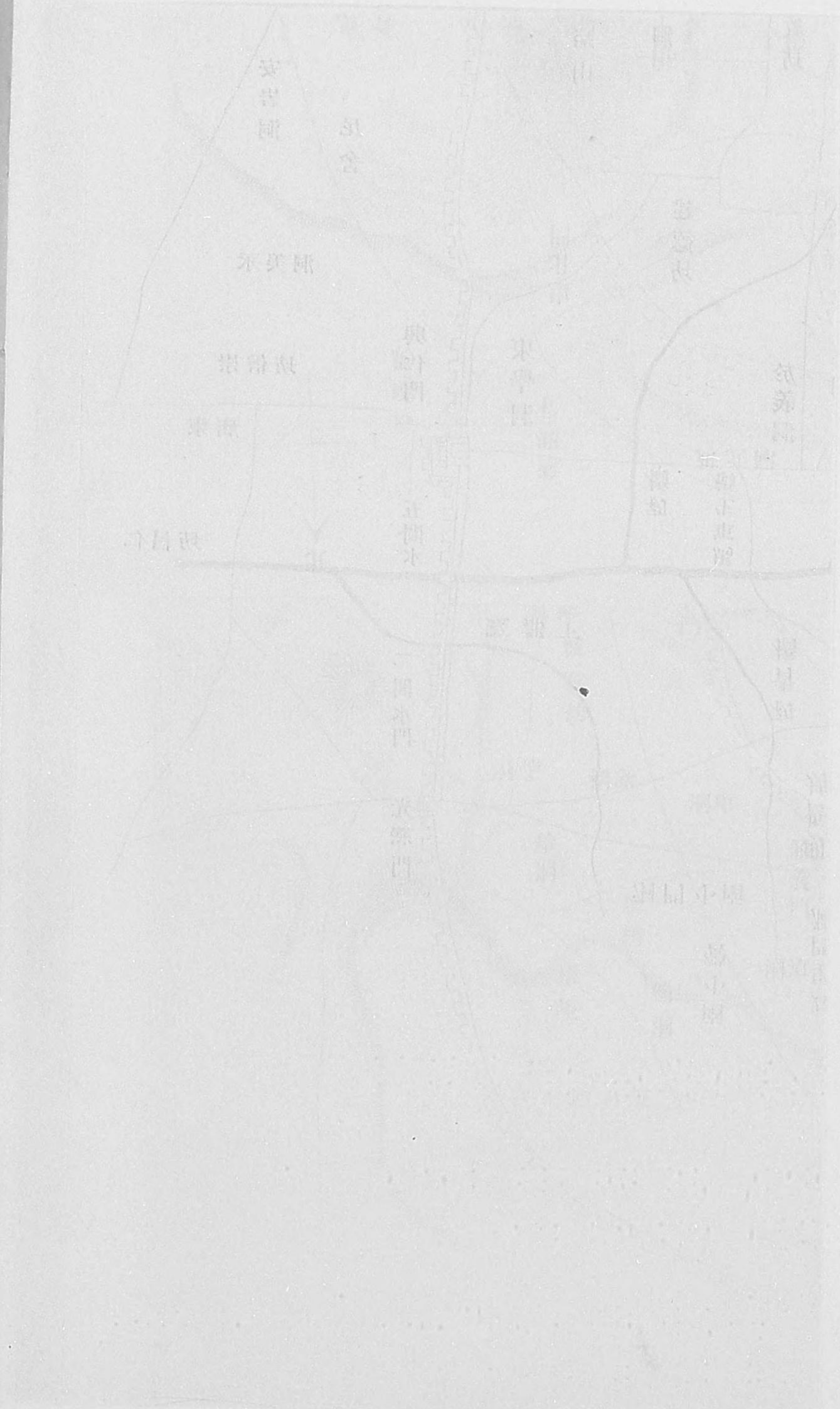


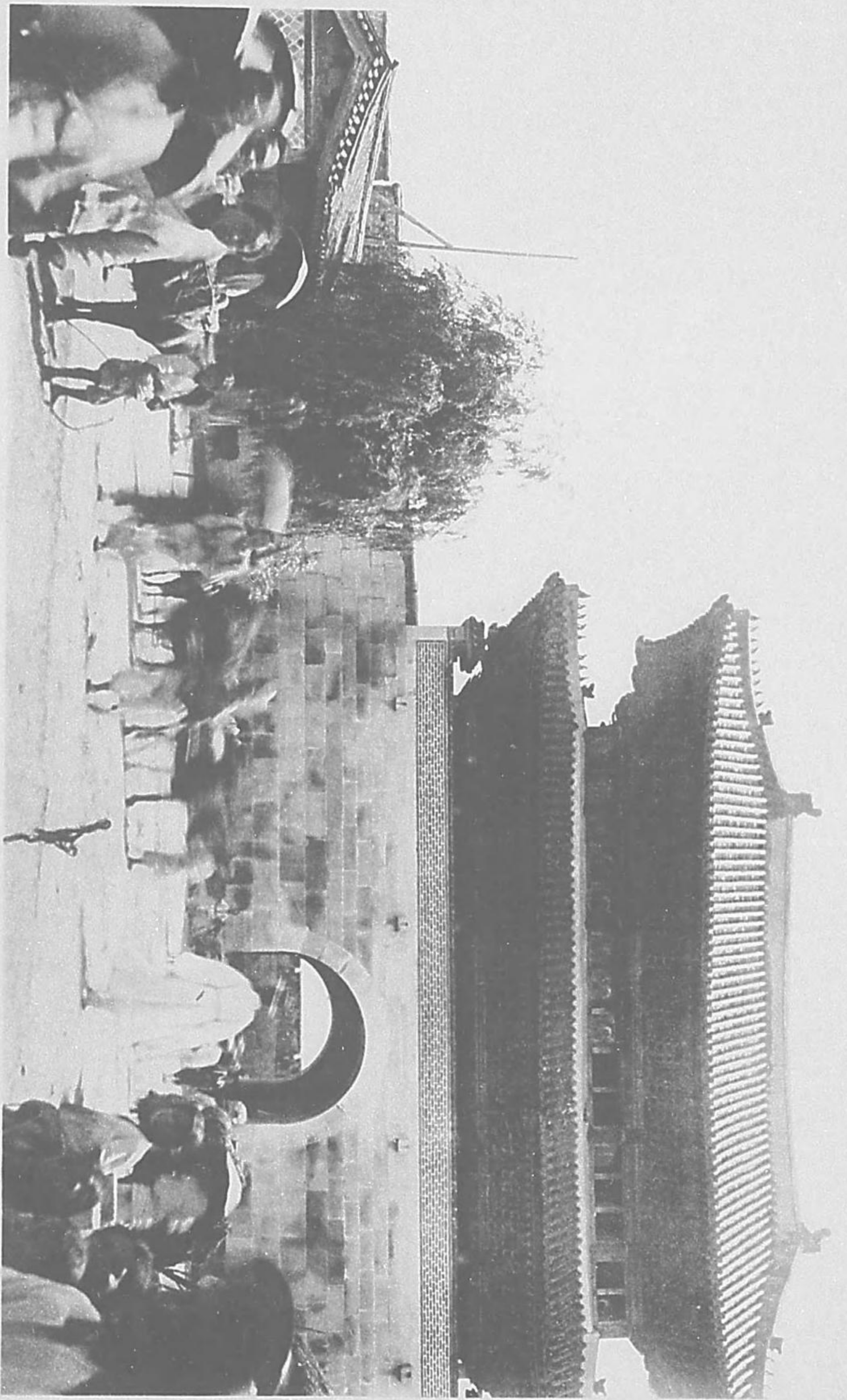
北

所五臺塔

興仁門内方

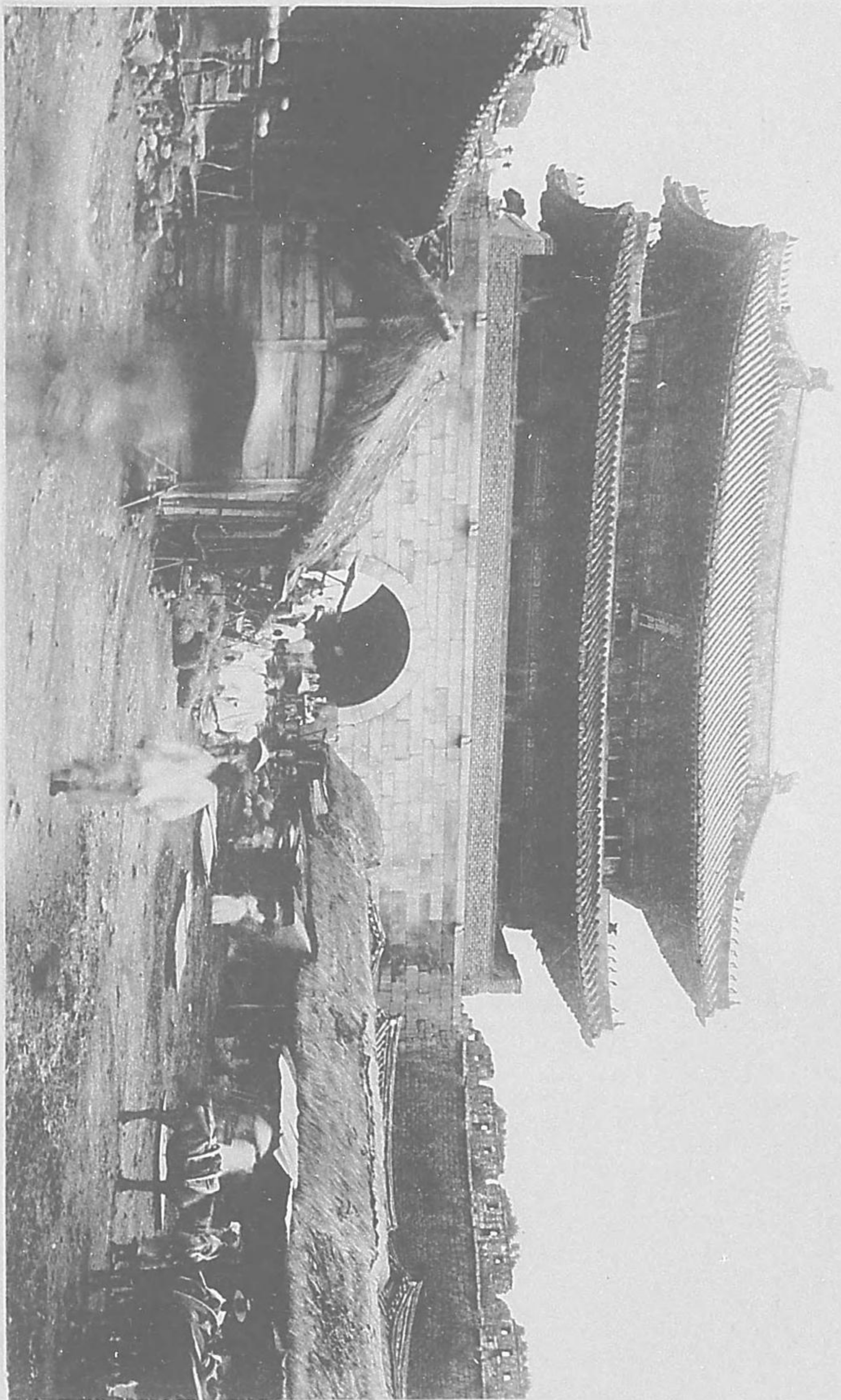
京城の東門にして一名東大門と稱す各門中の最大一なり其構造切石を疊み門孔を穹窿状に造り門扉は鐵板を以て包み上に層樓を置き門の左右高壁を以て固む其高さ殆ど二十尺なり李氏漢陽に都せし時建築せるものなれば已に五百餘年の歳霜を経るものなり





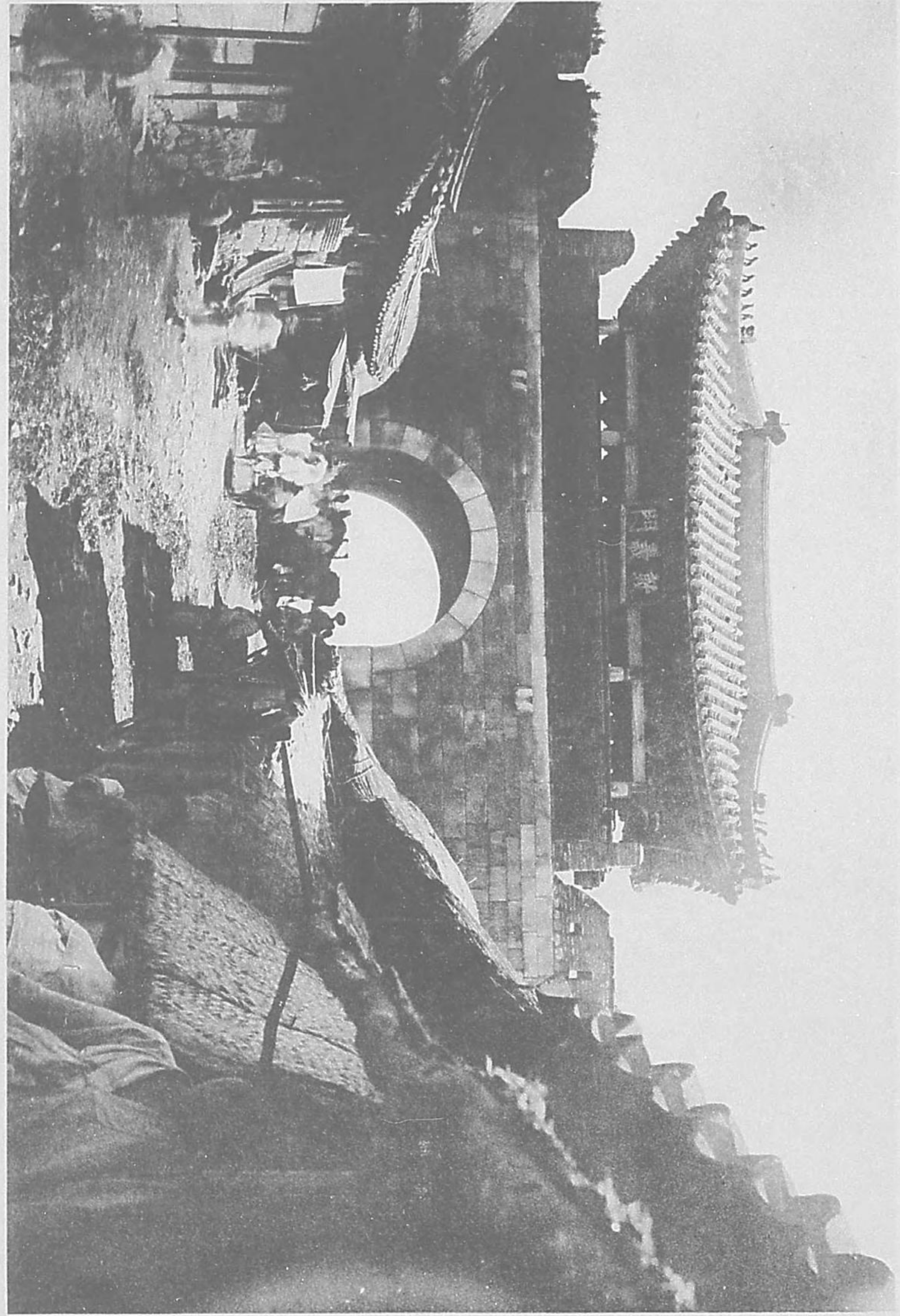
崇禮門外方

南門にして一名南大門と稱す興仁門と同じ曾て此門の烏有
に屬し後再建して舊に復す



敦義門

西方の門なり敦義肅靖惠化光瀝昭義彰義の六門も東南兩大門と等しけれども門上の樓閣ハ層樓に非す稍や小なり周回も狭く諸門とも高壁を以て門の左右を圍む門扉鐵板を以て包むものは有事の日敵兵の侵入を防禦するか爲めたり



肅靖門

北方の門なれど茲に眞影之れなし

惠化門

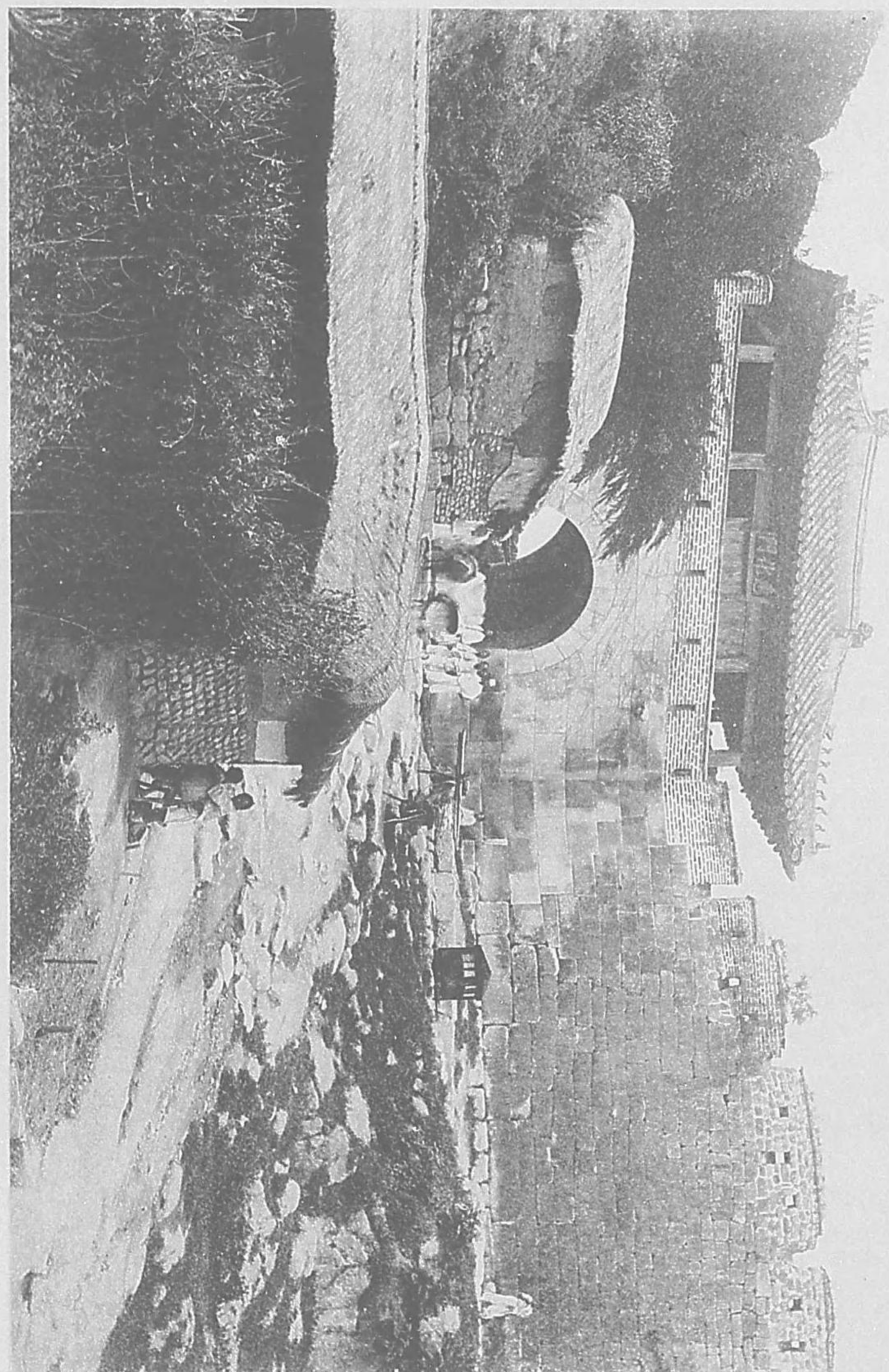
東北の門なり

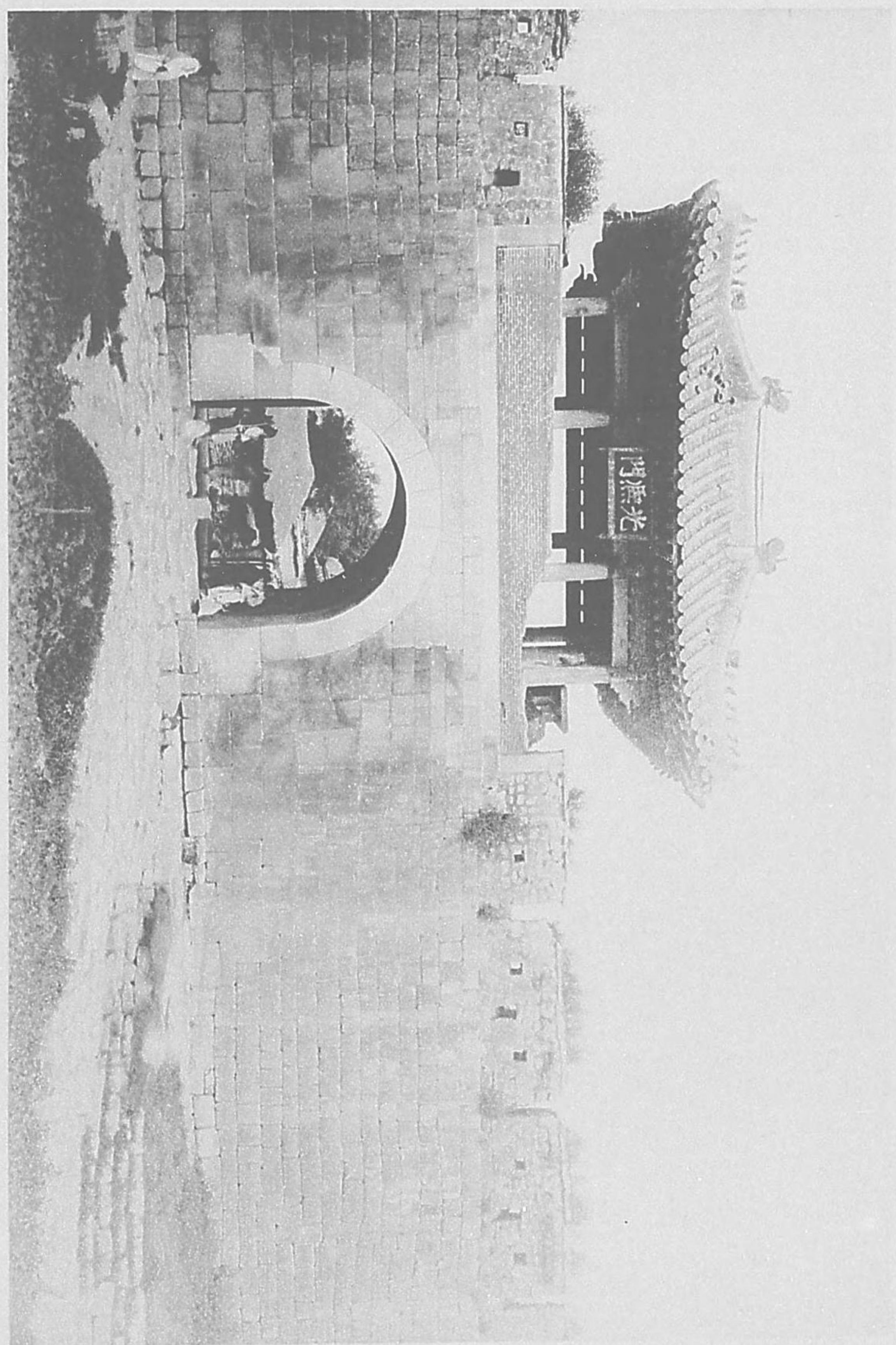
光灑門

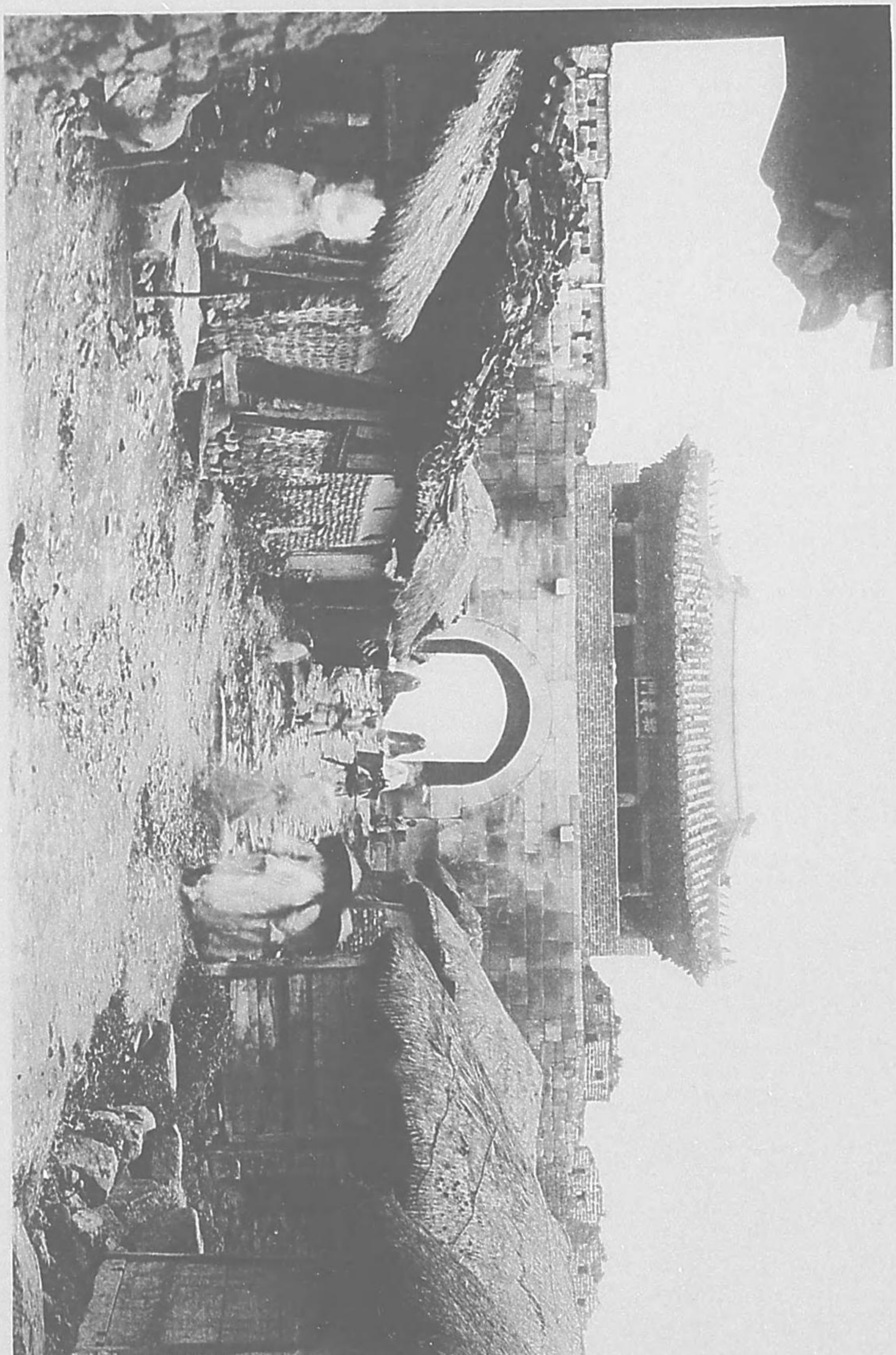
東南の門なり

昭義門

西南の門なり







彰義門

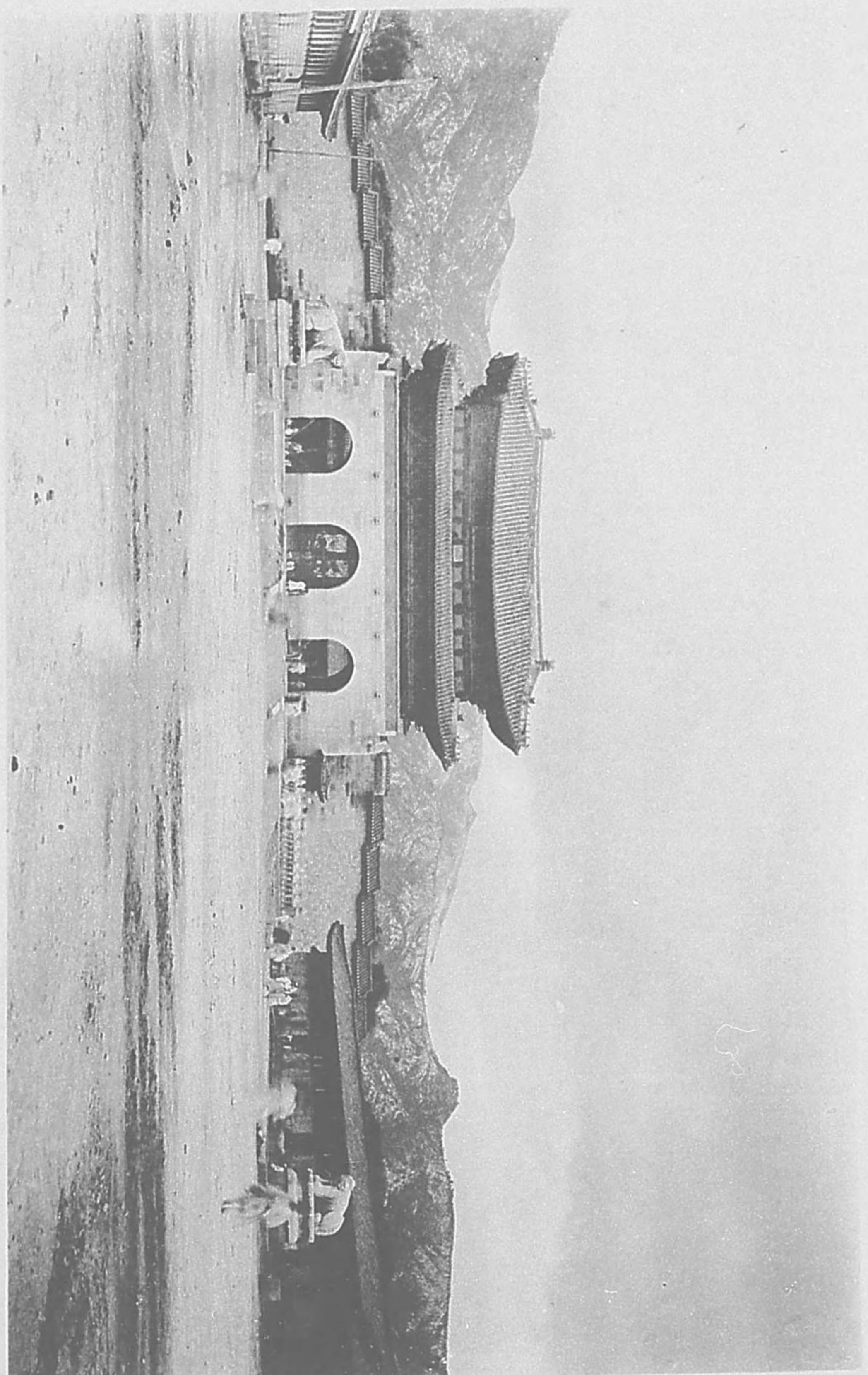
西北の門なり

京城周回の各門ハ毎日午前三四時頃鐘聲と俱に門扉を開き
午後八九時頃又鐘聲と俱に扉を閉す夜間の内外の往來を絶
ち午後の鐘聲を聞や南山の烽臺に烽火を擧ぐ是れ朝鮮京城
の規律にして五百年間未だ一日も怠らすと云ふ
各門の内外にハ左右とも矮少の茅屋を構へて飲食を販買し
或は駄馬を牽き此に會して貨物を商ふ之れを朝市と稱す



景福宮

新大闕と稱し國王の宮殿にして紀元千五百九十二年日本の兵朝鮮を侵略し京城に入り王宮を焼きし時景福宮も其災に罹れり千八百七十二年大院君李昰應攝政中再建して千八百八十五年三月に至り今王新宮に移御す構造は四方強壁を以て圍み高さ二十尺南に正門あり光化門と云ふ門の左右には石造彫刻の獅子を置き宮城内は青松鬱蒼たり高閣樓臺空に聳へ曾て國王は俄國の建築技師「パナン」氏に依頼し歐風の高館を建築したり



慶瀨宮

舊大闕と稱す紀元千八百八十五年前は此の宮殿を王宮とす
當時の内務府の許諾を得れば參觀する事を得るなり



1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

1911

舊大闕夏亭

慶熙宮の庭園に有る小亭にして夏日納涼に適する所なり

外務府

統理交渉通商事務衙門と稱す略稱して外衙門と云ふ外交の事を掌る朝鮮政府の一衙なり朝鮮國が諸外國と條約議訂せしハ八ヶ國にして英吉利北米合衆國俄羅斯日本清國獨乙法蘭西伊太里國なり其内佛蘭西ハ千八百八十六年の議訂條約にして理事官を置き獨乙ハ千八百八十三年の條約にして領事代理を置き伊太里は千八百八十四年に條約を議訂すれども未だ公使領事等を派遣せず千八百九十一年の海關報告には京城在留の諸外國人千貳百六拾八人なり就中日本及び清國人多し或ハ米佛獨英澳伊俄典葡西の十ヶ國人もあり



訓練院

陸軍練兵所にして北米合衆國より陸軍士官二名を聘し教官
とす練兵事務を掌るものは練武公院と云ふ官あり

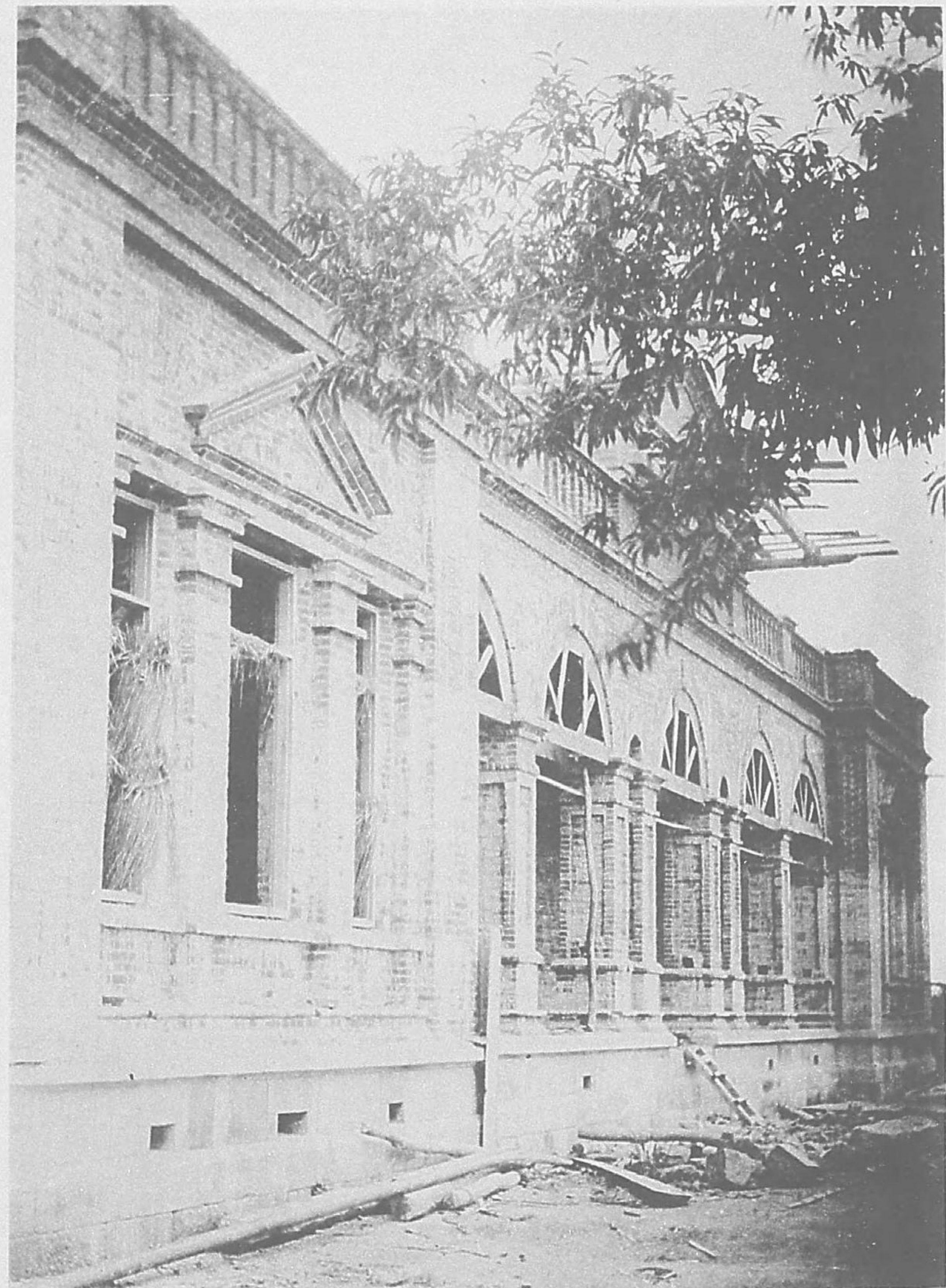
英吉利總領事館

條約議訂せしは千八百八十三年にして新に歐風の總領事館
を建築したり建築の職工は支那人を使用し京城内最も好景
の地を撰ひたりと云ふ



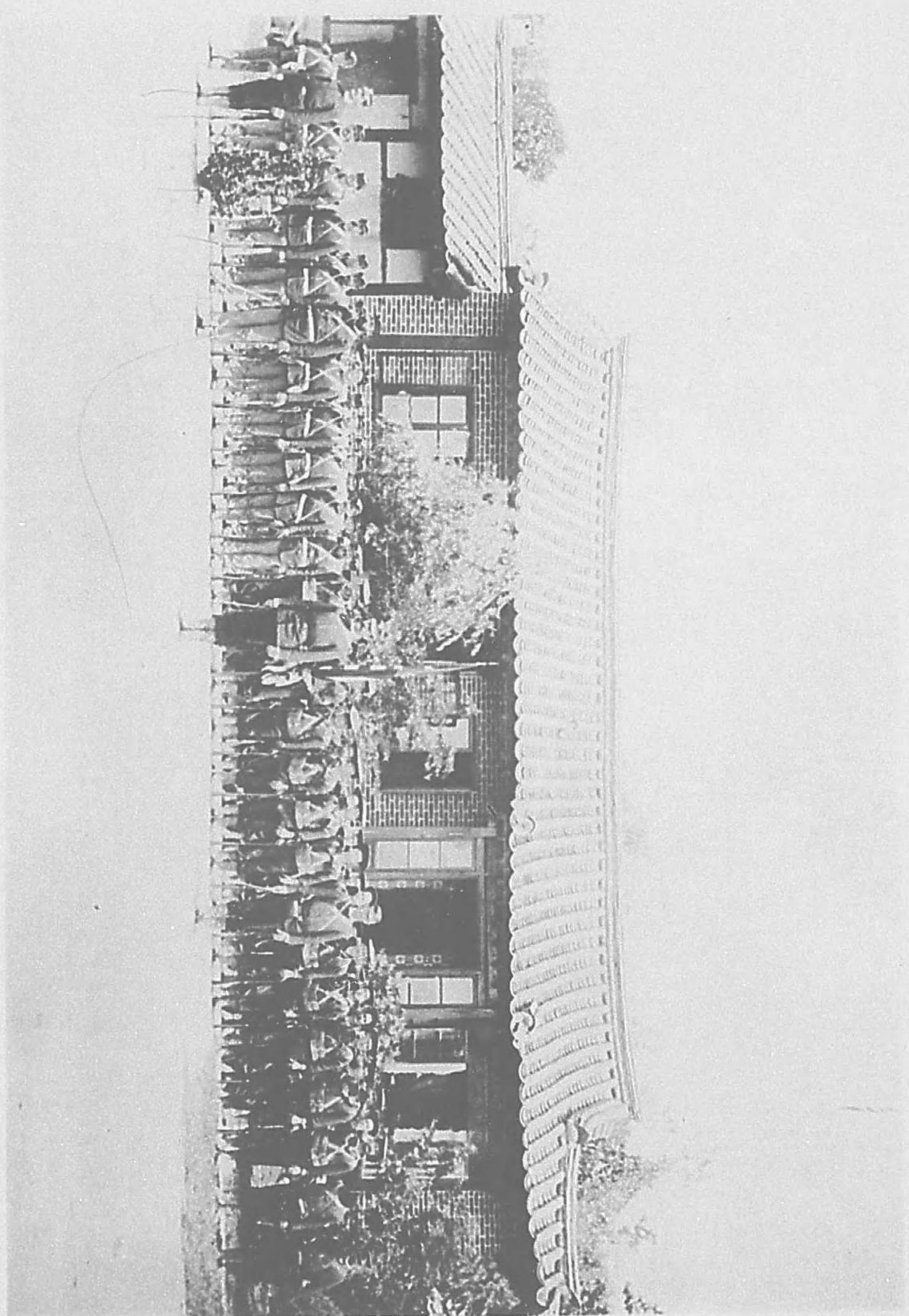
俄羅斯公使館

條約議定せしは千八百八十四年なり日本人を職工として歐
風の館舎を造營したれば職工の巧みなるが故堅牢の高厦を
建築したり



米利堅合衆國公使館

在來の朝鮮家屋を以て公使館とせし條約議訂は千八百八十二年なり千八百九十年六月二日朝鮮國王の依頼を以て合衆國軍艦「スハタフ」號の水兵を公署内に屯營せし事ありしと云ふ

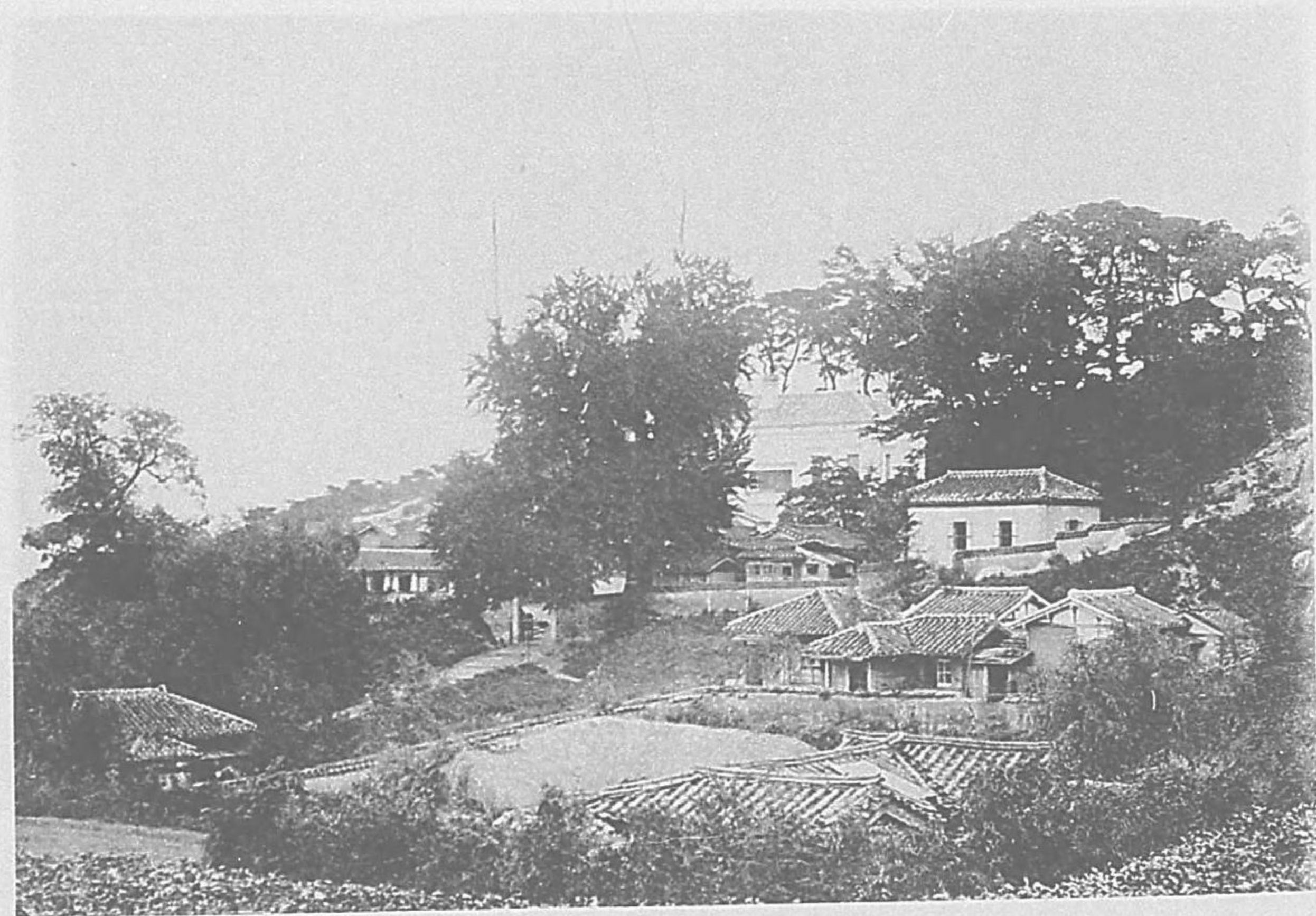


清國公使館

南大門と泥峴日本町の間であり大清帝國朝鮮駐劄總理交涉
通商事宜と稱し其北隣は清國理事府則ち領事館なり南の方
には清國電信局ありて清國線天津に通す且つ清國海關の居
留民便宜の爲め清國同價の郵便切手を發行す清國と朝鮮と
の商民水陸貿易條約議定は千八百八十一年なり

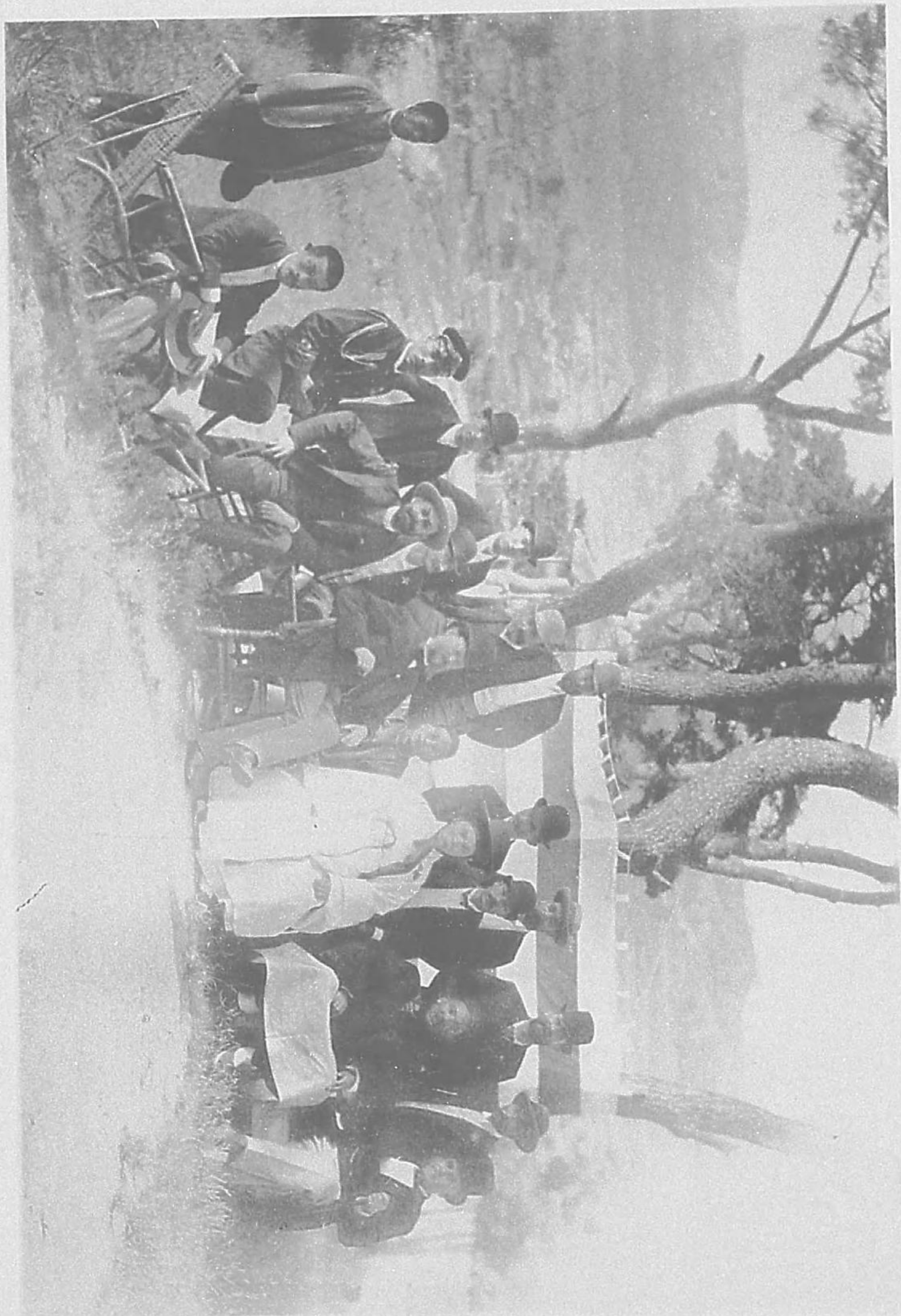
日本公使館

日本の公使館は南山の麓緑樹蒼々の間にあり歐風の高閣にして前面左傍には領事館あり館内には郵便局出張所あり警察署あり領事館の前面泥岨鑄洞及び後の方俱に日本人の居留地なり素と日本公使館は敦義門外松洞の清水館にありしが千八百八十二年の變亂に遇ひ後城内濟洞の方に轉し大院君の邸宅に向ひしか千八百八十四年の變亂に再ひ其災に罹り其後今の公使館を建築したるものなり條約議訂は千八百七十五年にして朝鮮國が諸外國と條約を締結するに至れるの嚆矢にして是れぞ朝鮮一大開闢とも云はん乎朝鮮の電信局は日本線と連接して日本の長崎より朝鮮釜山港に海底線を通す



各國使臣及朝鮮大臣

日本帝國公使館に於て各國の公使領事を宴す北米合衆國の公使「オーガスタイン、ハード」氏俄羅斯國の公使「ビ、ア、ヂミトロブスキ」氏清國公使袁世凱氏佛蘭西國理事官「エ、ロシユ」氏貌列顛國總領事代理「ウオルター、シー、ヒリヤー」氏獨乙國領事代理「エフ、レーンズドルフ」氏朝鮮顧問官米人「リセン、ドル」氏朝鮮外衙門大臣及ヒ日本梶山公使其他公使館員なり



南大門を入て進む事七八丁にして十字街より出づ其右手の角
に一大銅鐘を層樓の上に懸る是則ち鐘樓なり鐘樓より左折
行く事三四丁右に大路あり新大關の光化門に達す是れ當時
國王の宮城正門にして門の前面左右は各衙門及び兵營にて
電信局も亦此にあり大路を進む事尙五六丁慶熙宮に達す今
は是れをも舊大關と稱す宮に沿ふて進めは遂に敦義門に達
す是れ京城の西端なり
鐘樓より右折行くこと八九丁にして十字街あり是を左折
れば濟洞に出づ其間には大院君の邸右にあり外衙門は左に
あり三四丁隔たりしなり十字街を右折すれは無水河の水標
橋を渡る尙三四丁にして永喜殿に至れば日本人居留地に出
つ十字街を直進し四五丁にして兵營あり太廟あり太廟の裏
は昌德宮あり昌慶宮あり鷹の峰の麓にして是れも舊大關と
通稱す千八百七十五年の變亂に國王此の宮城にありて鎮

定を指揮せり内務府の許可を得て參觀すると雖とも一日にして看盡し難し十字街の大路を東方に直進すれば興仁門に達し京城の東端に出つるなり

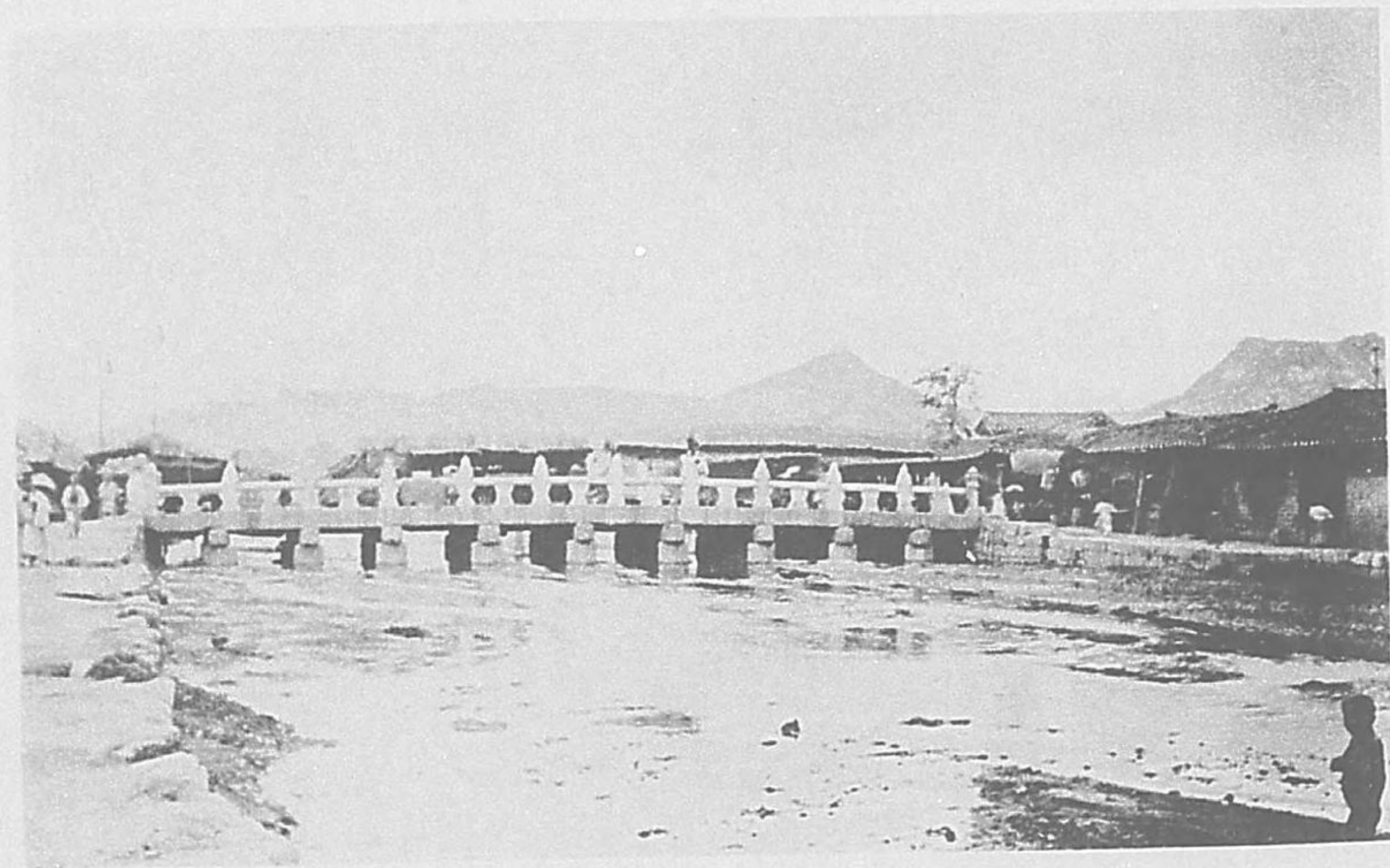
京城の四方は山を以て圍む北に白岳山南に木覓山東に駱駝及ひ拜峯山天藏山あり西に仁王山白蓮山及ひ蓮華山あり又遙かに北漢の三角山を望む山脉相通して重疊たり城外の南方に一大河あり漢江と云ふ仁川港より京城に達するの水路是れなり

鐘樓

鐘樓は市街の中央にあり大なる銅鐘を懸け是れを鳴らす時には京城の八門を開閉す左右にある層樓六棟は六矣店と稱して白木綿店笠店紙店葶店布店紬店の商店なり此の外にも京城内の物貨を商ふ大問屋四十餘店あり京城の繁花は此地に止ると云ふ

水標橋

水標橋の架せし所は京城内の名所とも云ふへき地にして甚不潔なり朝鮮には陰曆を用ひ正月十五日を上元と唱ふる祝日にして此日には橋を渡る事七度なれば厄難を掃ひ幸福を得るとて人必ず橋上に往來せり



華都監

舊練兵所なり日本より磯林陸軍大尉が教官となつて朝鮮の
兵士に近世の軍式を教へしより今の漸々進んで訓練院を設
け北米合衆國より教官を聘するに至れり

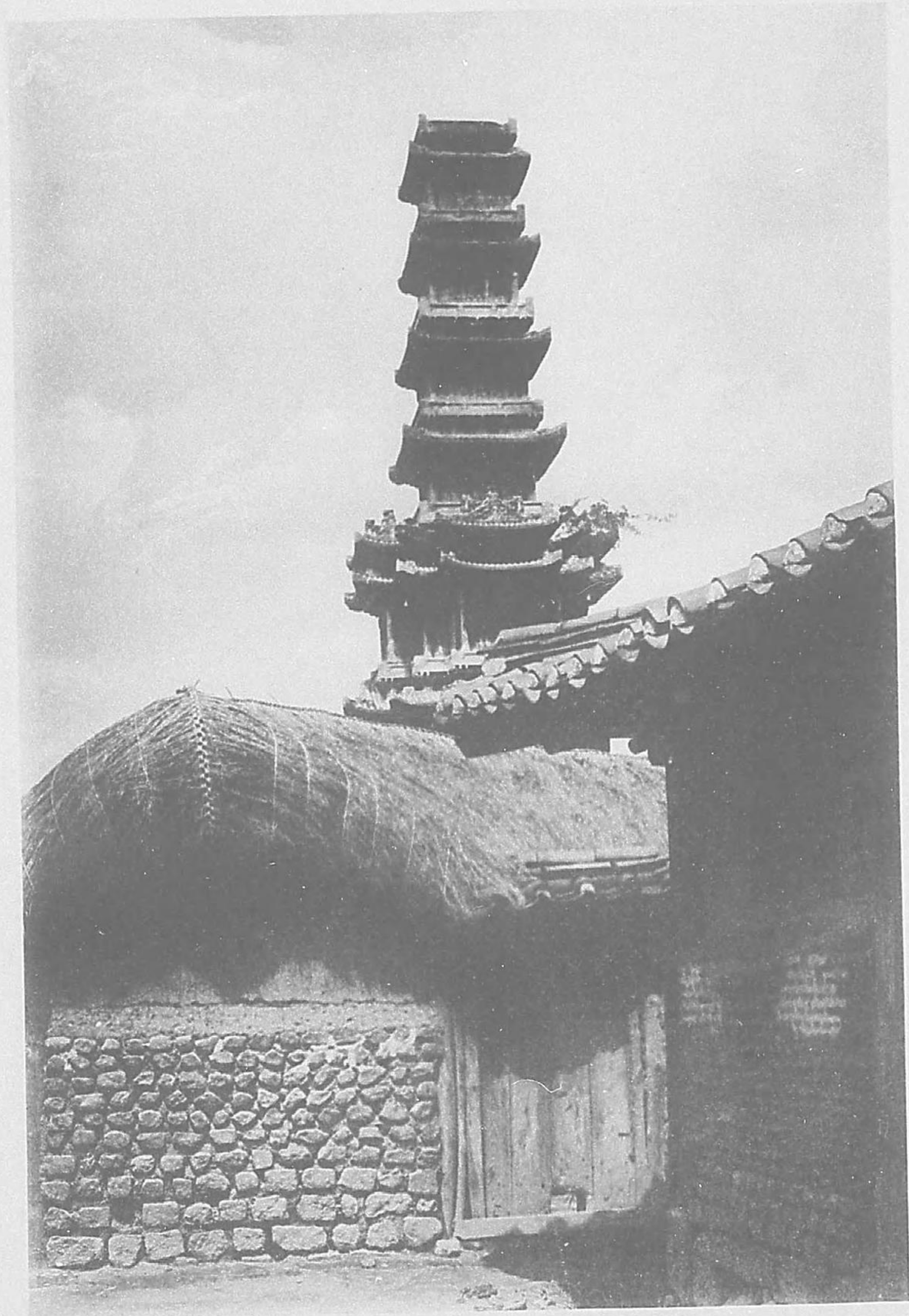
孝子の門

古訓に孝子節婦には褒賞を與へ是れを門閭に旌表すと云ふ
あり今世に至ても朝鮮政府は古訓の如く之れを行ふ此門則
ち孝子節婦を旌表したるものなり南氏と云ふ家にして孝子
あり節婦あり一家に萃まる前後八人なり實に感賞するに餘
ありと云ふへし



寒水石密刻佛像之塔

京城の塔洞と云ふ地にあり是れ等の石塔は寺院にこそあるへきに此塔は市街に存置せり聞く往古漢陽は大なる寺院の地なりしが李氏之れを都とせん爲め寺院は城外に移したれど此塔は奇なるがゆへに之れを残り置きしとなり紀元千五百九十二年日本の兵朝鮮を侵略し京城に攻入り之を日本に持歸らんとして兵士をして解き卸させけれども石塔重量にして上層の二段にして止む惜哉此時彫刻を傷けたりと云ふ



京城内の眺望景色其一

總稅務司の街門より市街を望むの景

其二

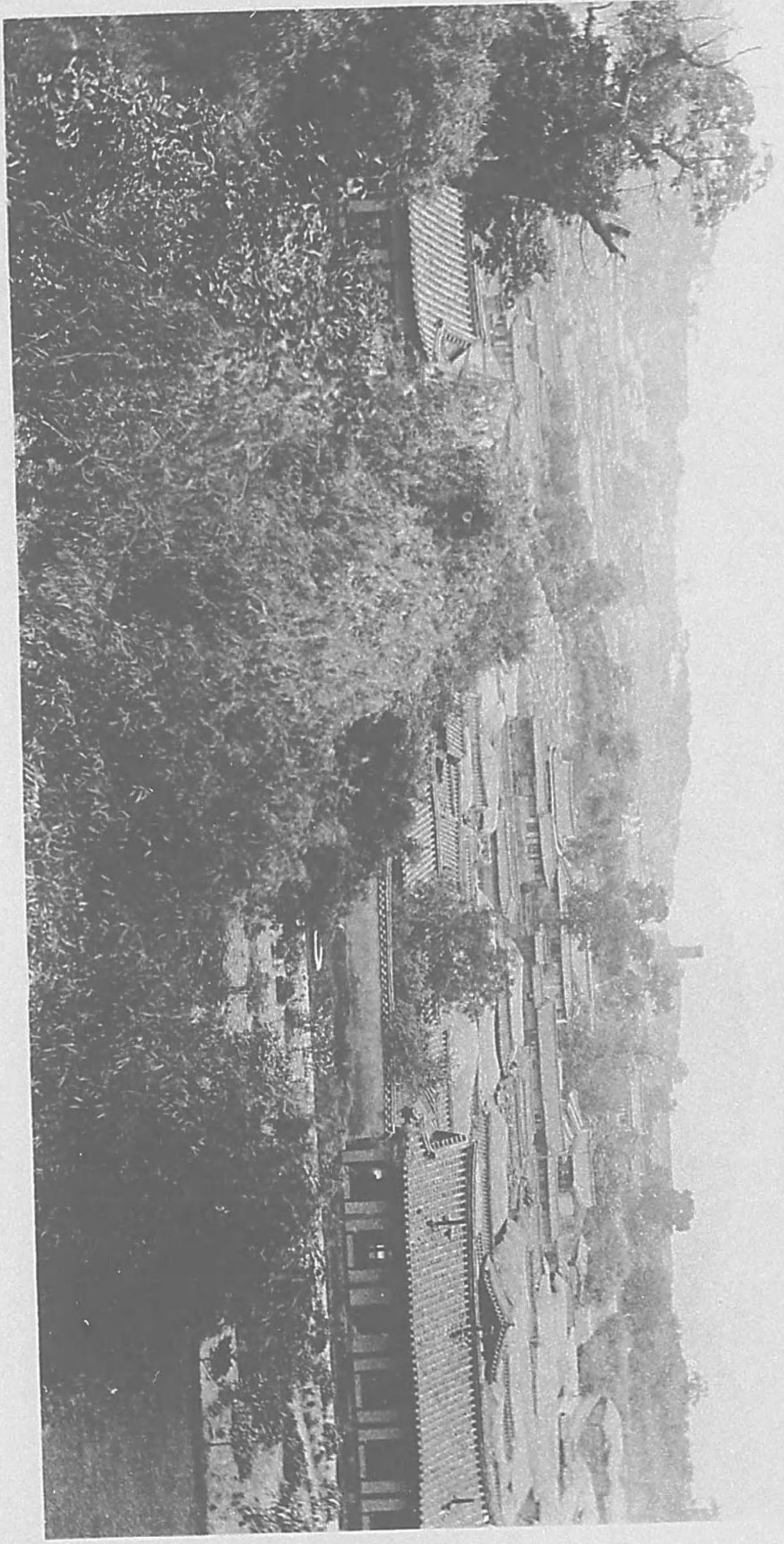
北方彰義門途上より東南一方を望むの景

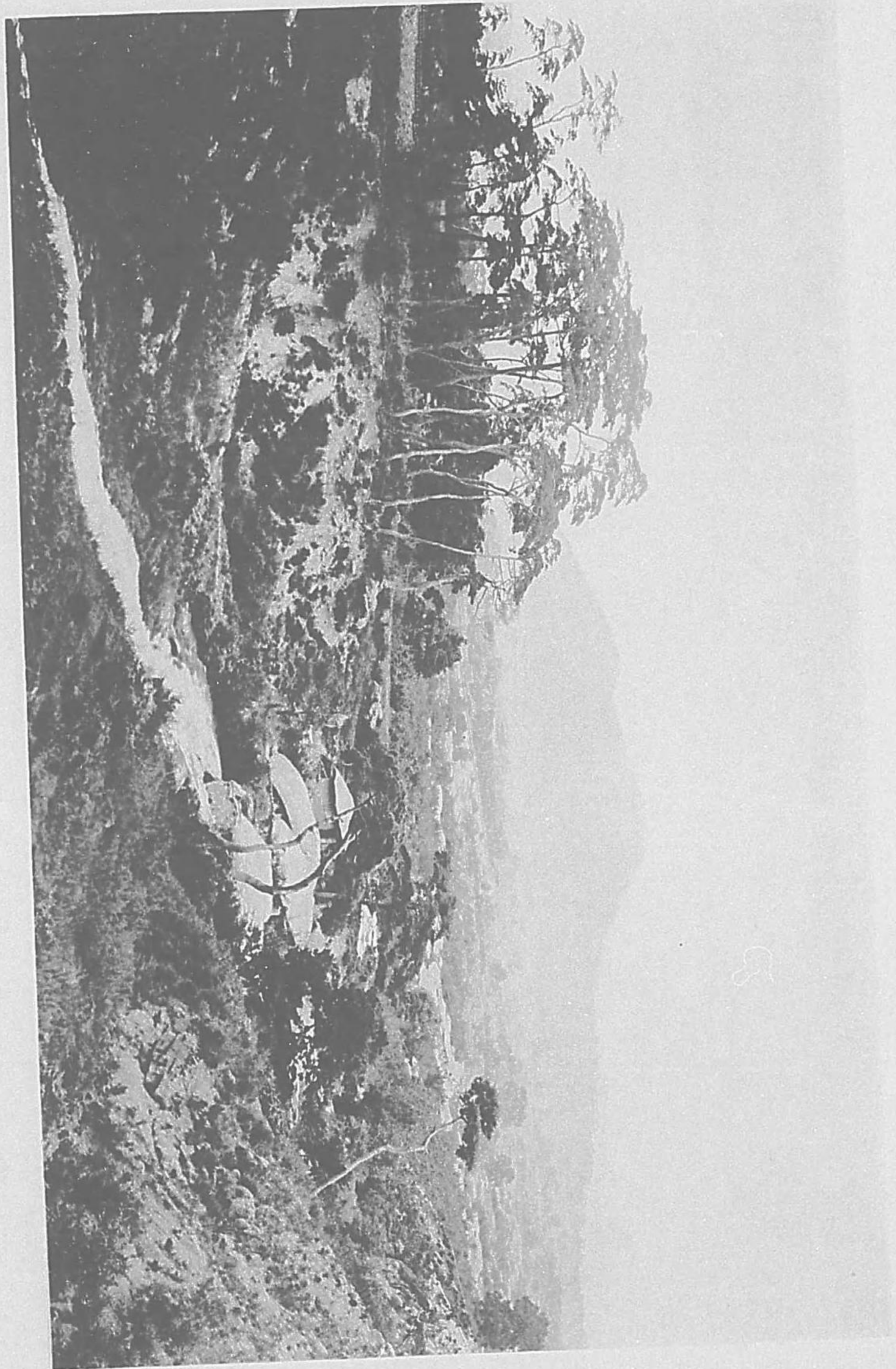
其三

總稅務司衙門より北方を望むの景

其四

日本人居留地にある寫眞師玉潤堂樓上より市街を望むの景

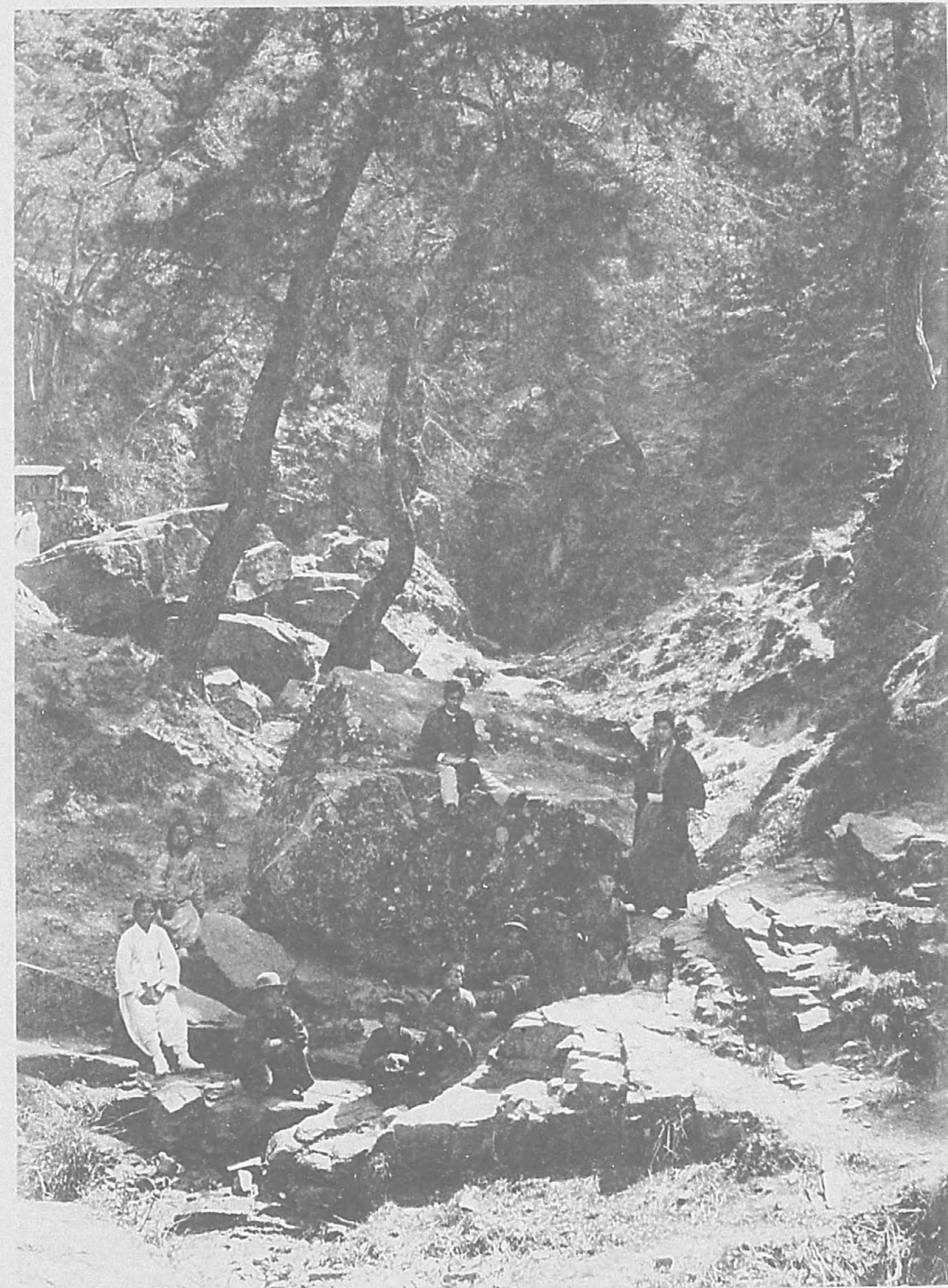






木覓山泉源

京城の南山にして此邊より東の方は樹木鬱蒼たりゆゑに風景佳趣山水を樂むもの常に逍遙と來る溪澗の流泉清涼掬すへし飲むへし京城の地は不潔多しと雖とも郊外に出つれば山水の景色流泉の清湍愛すべきもの多し
木覓山の衆峰に秀て、高く其頂上には烽臺あり國內八道の烽線は此に相會す朝鮮には事變を報するに烽火を以てす烽臺の設けの八道の各地に在るもの凡三百六十五箇所間烽の數二百六十九ヶ所烽火の夜間一點の火あれば無事の報とす二點の火ある時は異變ありとす白晝は薪柴を焼き昇烟を以て相圖とするの約束なりと云ふ



郊外にして遊歩すべき地は東の方興仁門を出つれば東廟あり
り箭串橋と名付し大なる石橋あり全國中十三牧場の一と云
ふ牧場あり馬匹羊の類を飼養す此邊は冬期に至れハ雁鳴の
群集する地にして銃獵に適す松坡鎮は毎月兩度の立市あり
物貨輻湊す廣州の南漢山に登れハ國王避難の地にして離宮
あり廣州留守として高官の官吏を置けり
南の方崇禮門を出つれば南廟に至る京城南山の裏なり西氷
庫は冬期漢江の氷塊を貯藏し盛夏の用に供す龍山及び麻浦
は仁川の街道なり渡舟あり京城より四英里半漢江を溯る船
舶の爲め税關の派出所あり楊花津も僅か五英里にして仁川
街道に連らなる電信線を架して京城仁川間に通せしむ此地
も亦雁鳴群を爲し幾百万なるを知らず銃獵爲すべく又網す
へし

西の方敦義門より京畿布政司衙門に至る之れを京畿道監司

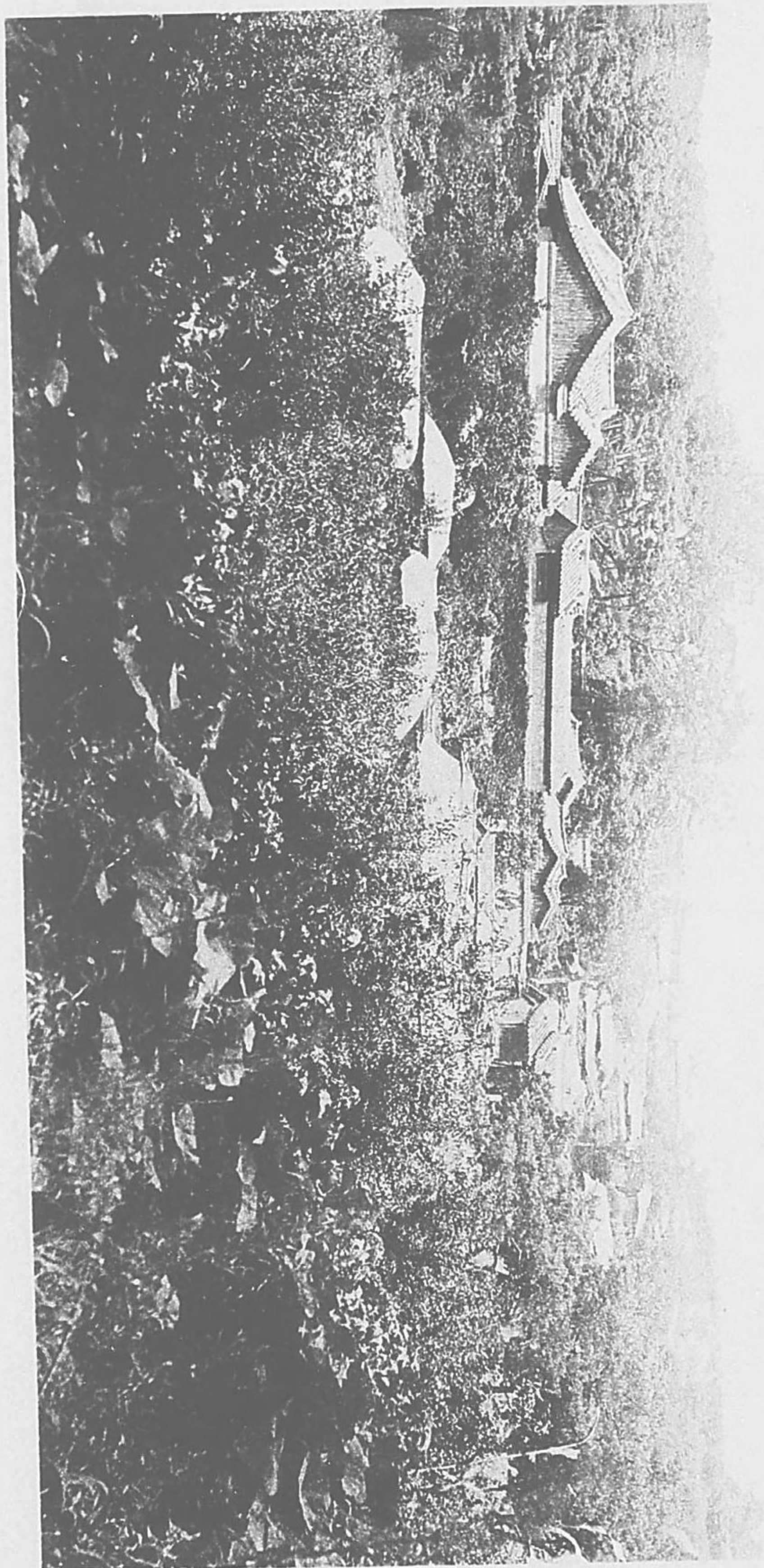
の廳とす松洞の清水館は清潔風致の所なり迎恩門あり慕華館あり此道路京城より支那北京への公道にして上古に朝鮮の都城の平安道の平壤に在て箕子此に來りしより殆ど貳千年平壤を朝鮮の都城となせり大同江の上流にして此街道は平壤安定順安安州嘉山定州郭山宣川鐵山龍川義州にして是より鴨綠江を渡り支那盛京省の鳳皇門を過つて鳳皇城に至る是れを支那北京への陸路とす

北の方彰義門を出つれば造紙署あり洗劍閣あり漢北門あり是れより道程十一英里餘にして楊州の北漢山に登る是も亦國王避難の地にして山城なり朝鮮の道路險惡修繕せず八道各地皆同じ其幅員稍や六七尺より九尺位平坦といへども所々凸凹常なく行歩中天然の山水を樂むと云へは雅致風韻の心あるに似たれども行旅の難澁は又思ひやられたり路傍に木柱を建て柱上に奇形の人像を彫刻せしもの一英里餘毎に

一本を見る是れ里程標と知るへし旅舎は茅屋土床にて室内に便器を置くが故に臭氣あり各地共に飲食店はあれど坐上にて食せず土床立食なり浴室を有する家なければ僅かに水浴を以て身體を清潔にするを得るのみ官吏又は外邦の人に於て地方官に頼めば官房を給するの例なり清潔と云ふへきに非ずとも市街の旅舎より遙かに優れり食物の市店より運んで可なり牛鶏豚肉鶏卵の如き野菜穀物の類何れの地にも用を缺かざるかり朝鮮内地を旅行せんと欲する者は是等の事情を記憶して可なり

東廟

東大門の外にある神祠にして祭神の關羽なり朝鮮にて之れを東廟南廟の二廟として祭るものなり千五百九十二年日本より大に征韓の師を起し朝鮮八道の城寨を攻落し城破れ防戦利あらずして日本の兵京城に侵入する各道の地の無人の疆を行くか如し京城に敗報屢々到るを以て國王大に之れを憂ひ王城を棄て支那北京に走らんとす一夜關羽の靈魂國王に告げて曰く汝夫れ之れを憂ふる勿れ予の東門に出て日本勢を挫かんと國王夢覺て後ち報するものあり東門の日本兵攻むる事能はずと依て之れを東廟として東門外に祭るなり



南漢山南門

南漢山の京城より十六英里餘にして山城なり城壁周回四英里半高さ二十尺國王避難の地なり日本の兵京城を攻むる事甚た急なり京城將に陥らんとす國王遁れて南漢山に入る日本兵追撃して之れを攻むれども道嶮にして進み得ず竟に此城の抜く事を得ざりしと云ふ



南漢山離宮

離宮の現今寺院となりて僧侶之れを保護存立す淨地にして
春の桃李の艶麗秋の紅葉の錦繡を着る佳景尤も此地に萃る
夏日の納涼又よろし行旅の客を慰むに足る離宮を保持する
の僧侶は朝暮佛に祈念し國家の安泰と國王寶祚の萬歳を祈
禱するなり

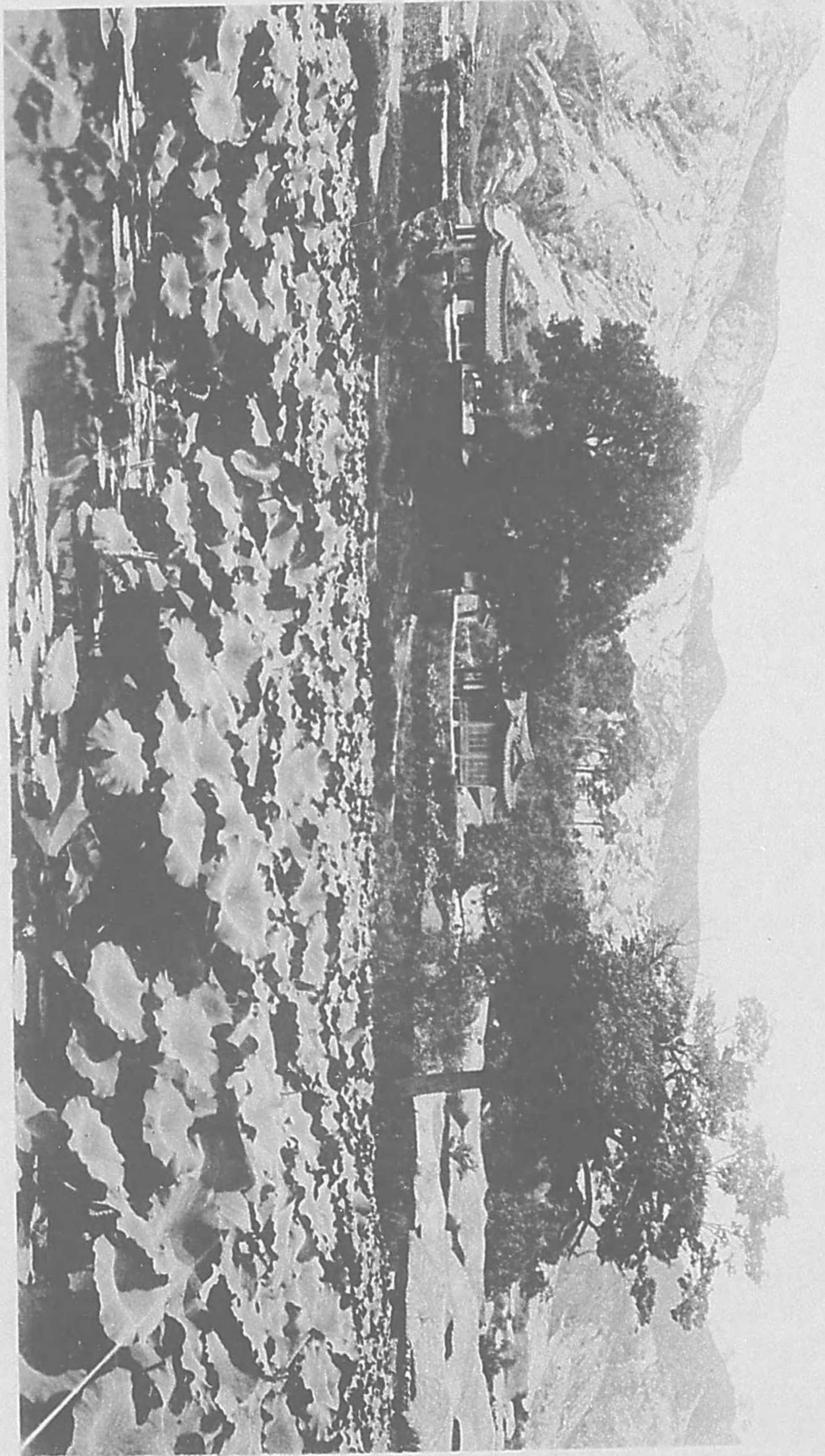
京畿道監司之廳

京畿道監司と云ふ高官あり朝鮮の門閥を以て之れに任す各
道皆監司あり地方官にして民政を掌るものなり



清水館天然亭

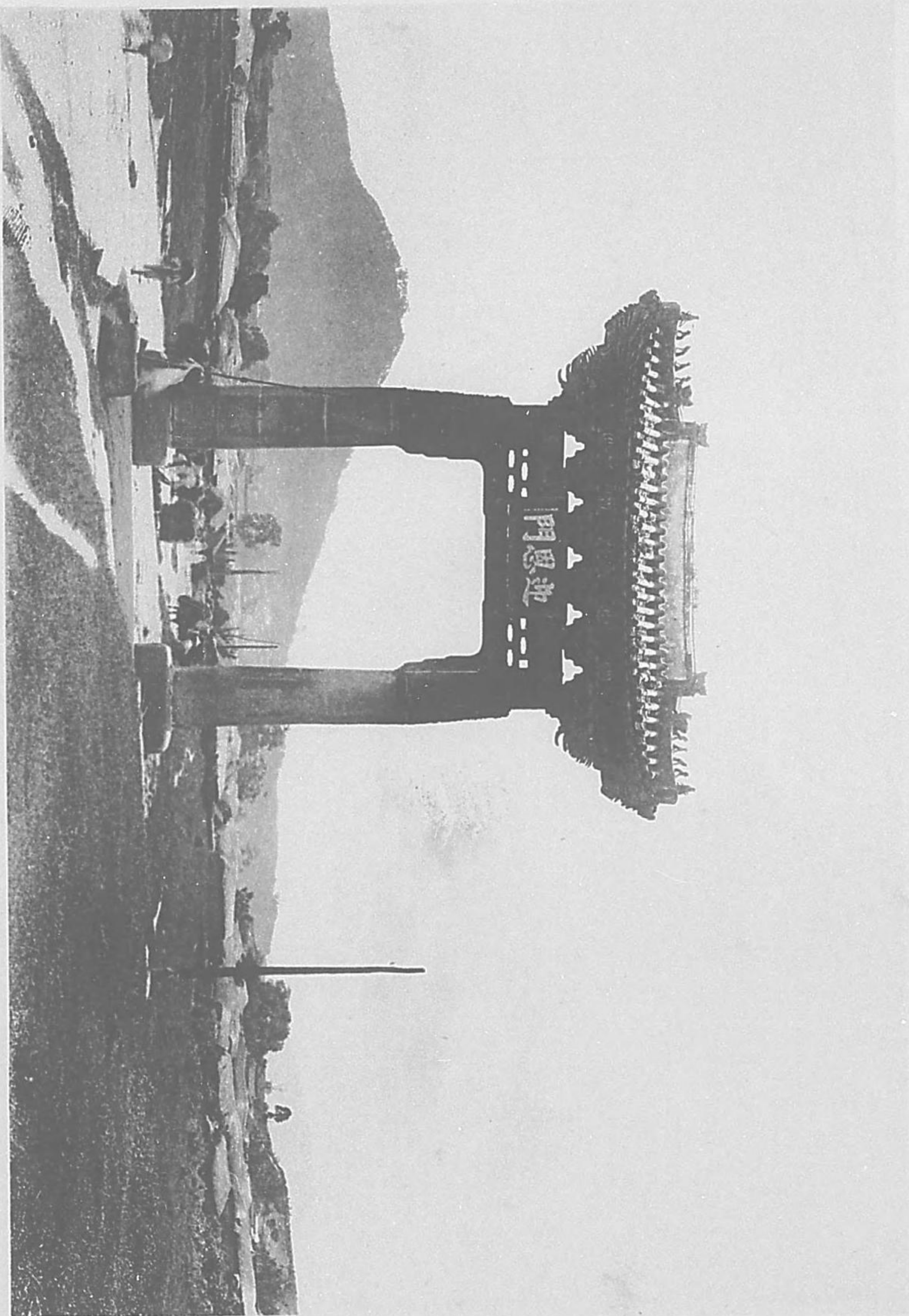
松洞の清水館は京城附近にあり最も佳景の地なり樹木蒼々
とし蓮池花鄭郁假りに日本公使館とせしか千八百八十二年
の變亂に亂民之を襲ふ公使遁れて仁川に赴く天然亭ハ此館
中の小亭なり



1914
1914
1914

迎恩門

京城の敦義門を出つれば支那北京の公道にして支那帝の使節朝鮮京城に到るの日漢江の上流にある臨津を渡つて京城に入る時國王郊外に出て此門に臨んで支那帝の使節を奉迎す後ち使節を伴ふて慕華館に休憩せしめ延ひて京城に入る甚た鄭重なり朝鮮の支那帝を厚遇せる父母の如しと云ふ千五百九十二年日本の兵朝鮮八道を侵略し進んで支那北京を攻めんとす朝鮮急を明國に告ぐ支那明國の大軍は朝鮮を救ふの援兵として京城に入る際臨津に來つて對岸を望めは日本の兵京城を攻落し進んで支那街道に及ほし臨津の流れを枕して宿陣す明兵夜る窺かに河を渡つて襲ひ來る激戰數刻明兵卻く朝鮮國王は南漢山に在れとも戰ふ事能はず後ち明兵和を講したるの古戰場なり是れ陸路支那北京に赴くの街道なれば此に迎恩門を建つるなり



造紙署

造紙署は朝鮮政府の事業にして古昔より製紙業ありと云ふ
紙質硬強且つ美なり官民相俱に用ゆるなり

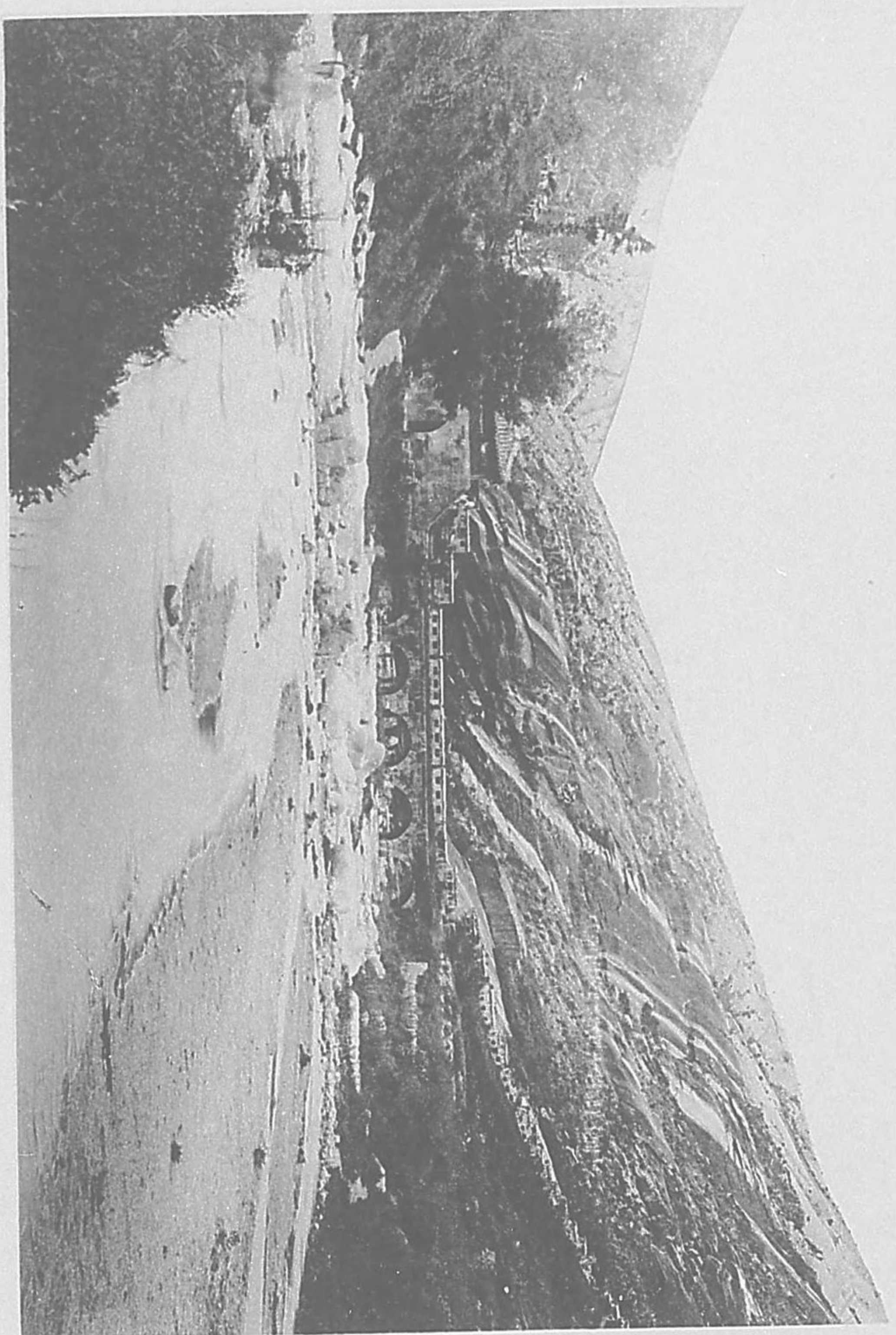
洗劔亭

清泉流れ來り溪流激湍自ら奇景を呈せ偃武の日何をか洗は
ん傍らに人あり笑つて曰く冠の纓を洗ふて可ならん



漢北門

北漢の地に至るの道にして溪流に架するに穹窿状の石橋を以てす北漢山城に登るの道路なり



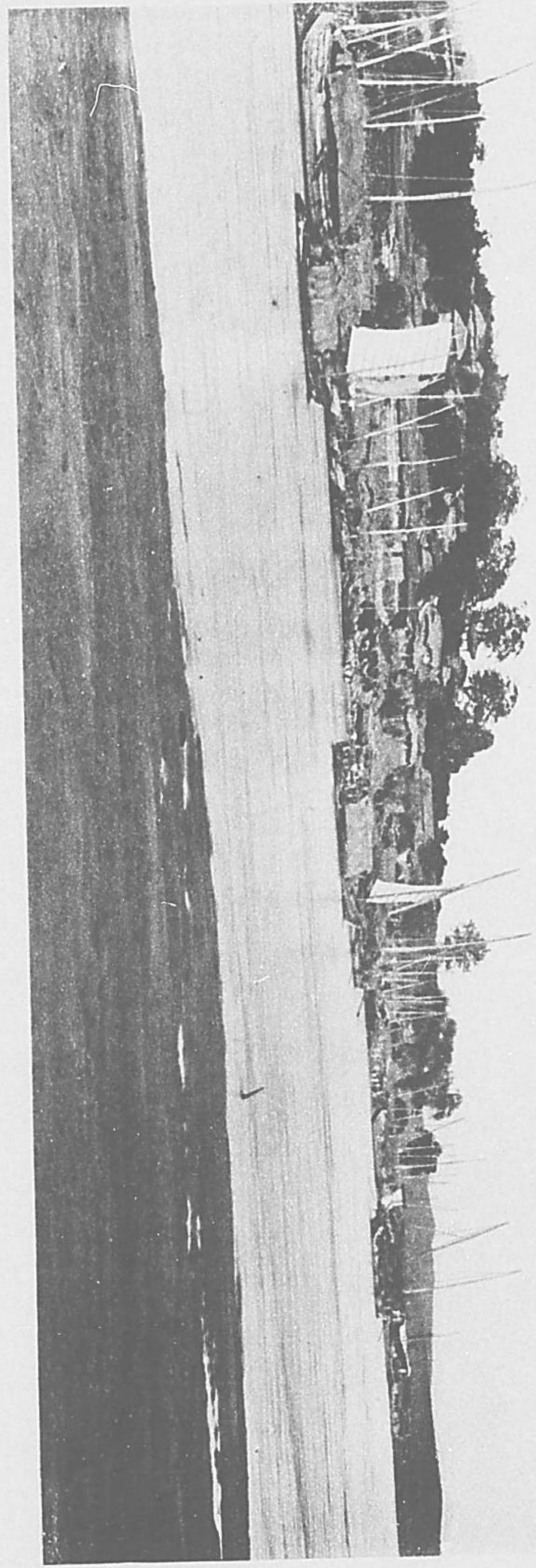
南廟

南門外にして是も亦關羽を祭る千五百九十二年日本の兵京
城に攻入る時關羽朝鮮の兵を指揮して南門を守衛したると
云ふ怪異の説を信し國王毎年廟祠に臨御し自ら之れを祭る
兩廟とも至つて尊信を極む



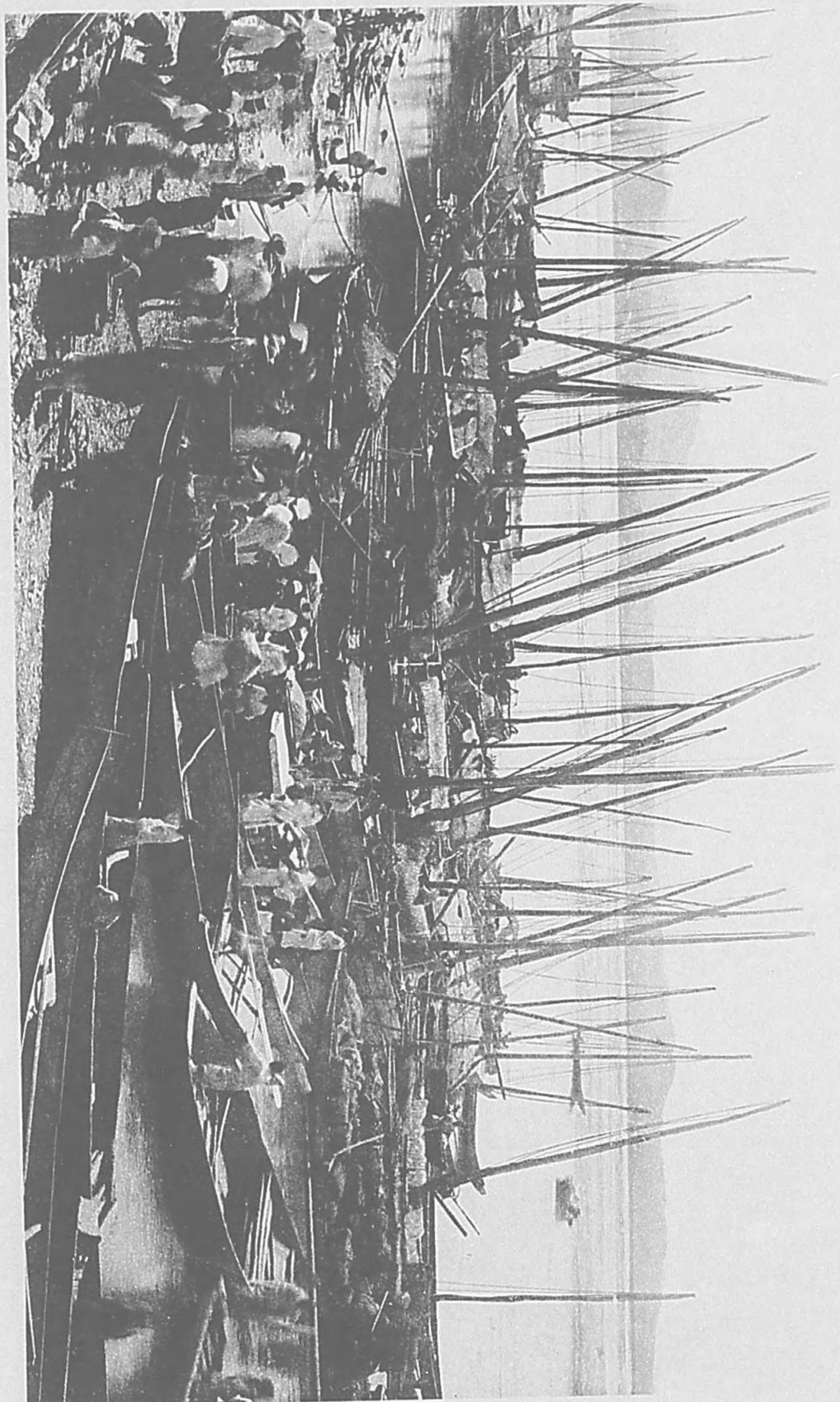
龍山

龍山の漢江に於ける開市場なり曾て楊華津を以て開市場とせしか紀元千八百八十四年に至つて龍山の地に改めたり龍山は京城を距る三英里餘にして道路平坦運搬の便利頗る良し龍山は漢江の一小村落といへども下流僅かの距離にして麻浦の一村あり仁川に赴くもの路を龍山麻浦に執らざるはなし仁川より河流を溯るには蒸氣船二隻あり一は龍山號と云ひ一は北米合衆國の船なり何れも川蒸氣船にして俱に龍山に着す船客上等貳圓下等七拾錢又日本形舢舨あり仁川より龍山の間往復五日間片道滿潮二潮にして到着す一船雇切水夫二名にして一日貳圓客七人を乗す至て安泰の渡航なり漢江の滿潮は四時二十四分大潮の滿漲せる廿九尺なりと云ふ



麻浦岸頭

朝鮮各道よりは海陸の便に依て貢米を京城に運搬す海運の便あるものは麻浦を以て貢米船の湊となす皆な朝鮮形風帆船なり貢米船の着するや輻湊雜沓せり貢米の高大凡一ヶ年拾七萬石餘なりと云ふ



麻浦三界

麻浦は水陸とも仁川に赴くの街道なり漢江に渡船あつて京城の方より對岸の地に渡る龍山に至るの船舶も航行するの地なれば彼我商民の便利を計り傍ら外國船の吃水淺きもの恣に漢江に出入し脱税を企圖せん事を防かん爲めに朝鮮政府は海關の出張所を麻浦三界に設けたり

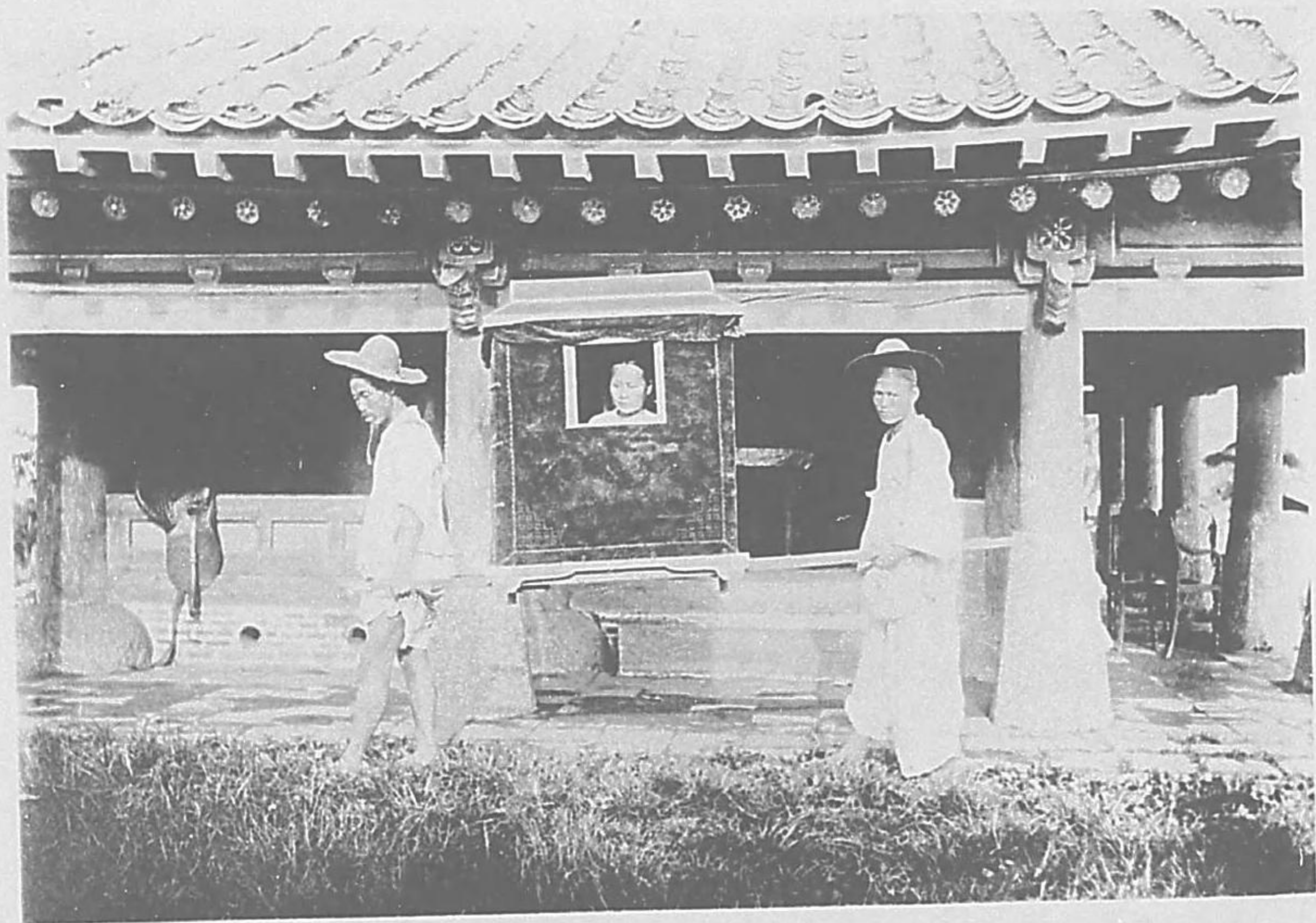
麻浦街道

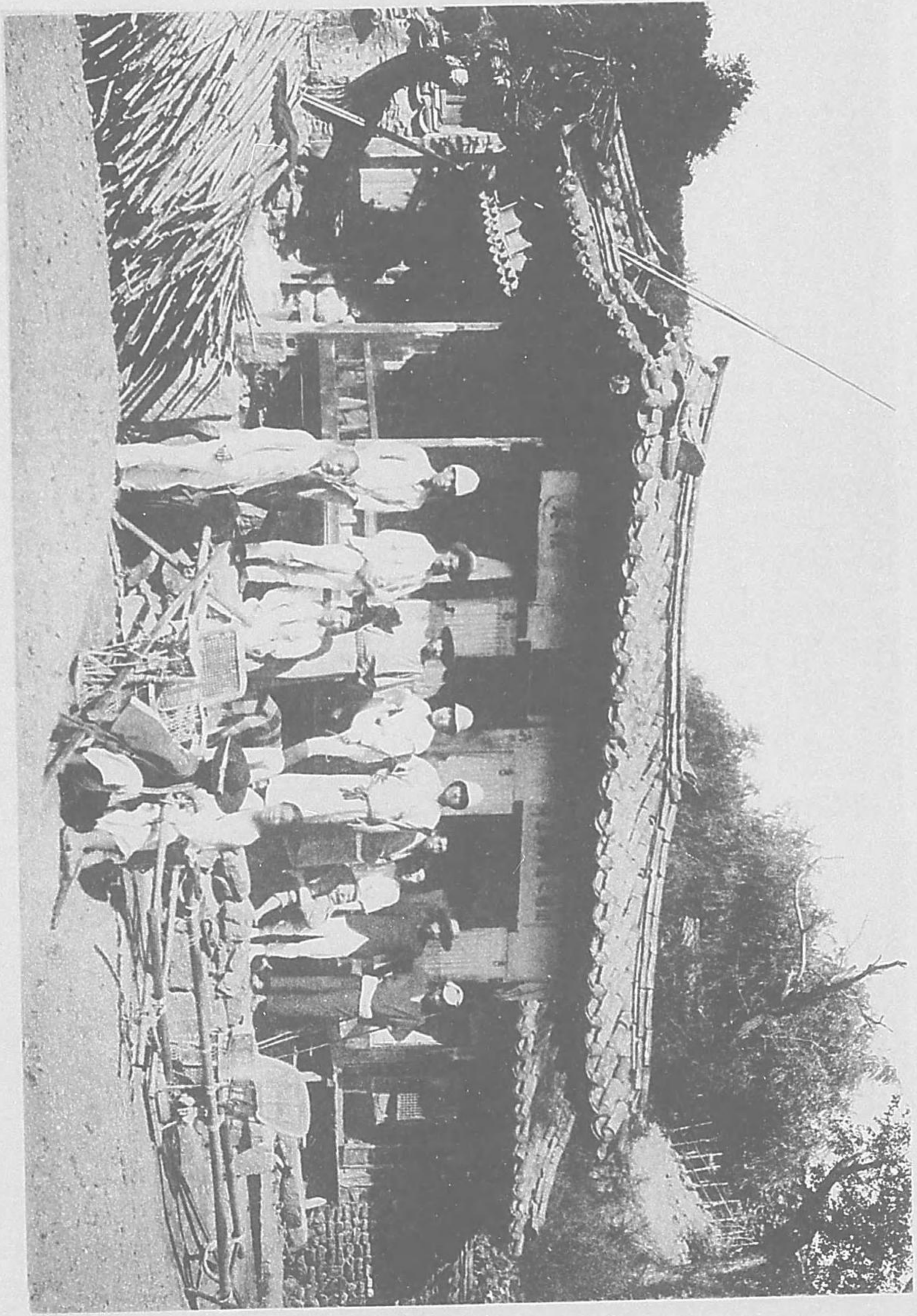
渡船を以て對岸の地に渡れば陸路仁川に赴くの街道なり漢江は毎年冬期に至れば水路氷結するを以て一二月の頃は水路の交通全く遮斷せり此時は山間を越えて仁川に至るなり途中梧陵洞と云ふ所に宿泊休憩所あり仁川に至る街道十八英里餘の中央にして此梧陵洞の外他に宿泊休憩すへき地なし



轎輿の圖三葉

漢江の水路遮斷して船舶の便なき時は乘馬せされは轎輿なり
り乘馬は京城仁川間片道貳圓五拾錢駄馬は同九拾錢なり轎
輿の人足ハ二名若くは四名一人分七拾五錢を以て雇ふなり
轎輿第一圖ハ乗たるの体を示す第二圖ハ阪路を登るの体な
り第三圖ハ日本人ハ京城より龍山の回漕店に會合せし時假
に椅子等を以て乗物を作り朝鮮固有の轎輿を用ひざるもの
を示す朝鮮ハ馬車人力車の便なきは甚た遺憾なり



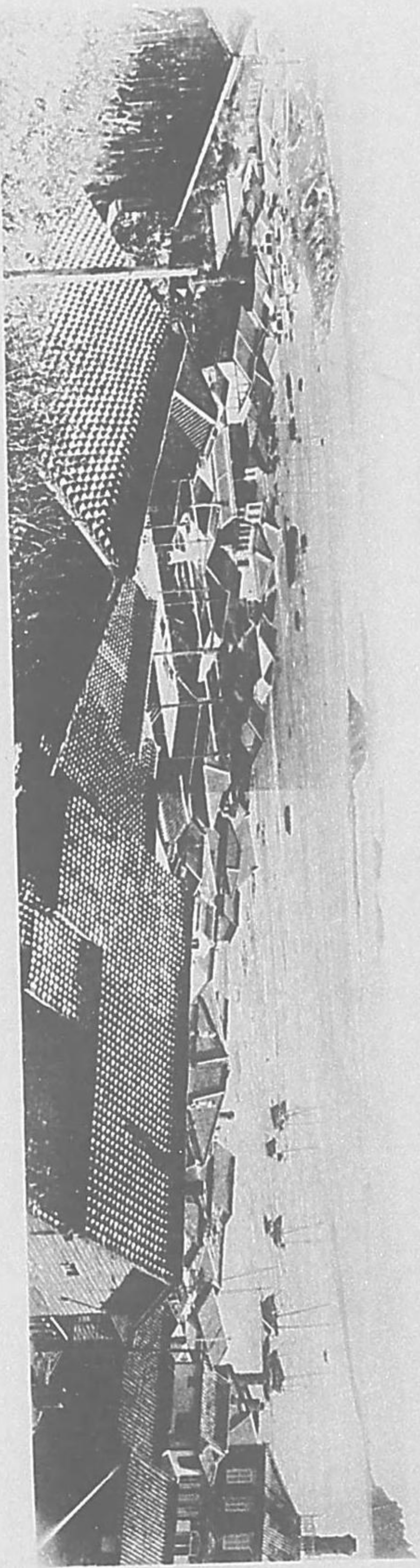


仁川港の仁川府濟物浦なり北緯三十七度二十八分三十秒東
經百二十六度三十七分に位し紀元千八百八十二年開港せり
開港の前の僅かに一小漁村に過す今や最も繁盛の地なり貿
易の日を逐ふて盛んなり入港の汽船の港内月尾島内外に碇
泊す陸地より距離稍や遠し上陸の船賃の月尾島内なれの
一人拾五錢月尾島外にて貳拾五錢上陸して旅館にの西洋風
最上等に大佛と云ふあり(館主日本人なり)怡泰(支那人なり)ホテル、ドコレ
ヤ(獨乙人なり)等もあつて一日の宿泊料一人金貳圓日本風の旅館
の四軒あり宿泊料の一日金三拾八錢なり
仁川より京城に陸路を往復するにの梧陵洞を越て直線旅行
なり水路の漢江の流れ海に入る所漢江口を溯れの草芝、通津、
金浦、楊花津、麻浦、龍山、京城に至るなり漢江口灣内仁川府、濟物
浦、花洞の間にの砲臺六ヶ所あり
永宗島と云ふ島あり月尾島にならんて長さ七英里半幅二英

里半の一島嶼なり水軍防禦使を置く漢江口に入るの第一要塞なり紀元千八百七十六年日本の軍艦雲揚號か此海峡を過る時炮撃を受けたるを以て直に答炮を發し遂に城を燒く此島に一の小島密接して此間僅かに七八十間なり之れに堤を築きて往來す万世橋と云ふ島中白雲山と云ふ小岳あり之れに烽火の臺を設く全島の戸數三百戸あり
 月尾島は仁川濟物浦の對岸にあり紀元千八百八十二年朝鮮内亂の時京城より日本公使の一行の難を此島に避け英國軍艦「フライレングフ」號に援けられて本國に歸るを得たり
 永宗島の東南岸と仁川濟物浦の北岸中央に在る月尾島贅月尾島を中心として内外一英里を以て外國船の碇泊するところと定めたり

仁川港

外國人の居留地及び開港場の市街眞景なり



江華島炮臺

炮臺ハ草芝鎮の海門に在つて頂山島と云ふ漢江口第二の要塞なり沿岸疊壁八九重長蛇の如し屈曲する所必ず炮臺あり丘の前面後面に樓閣あり炮臺と連なる即ち鎮城なり鎮より二英里許り上流を孫石頂と云ふ漢江口の第一なる險惡所かり江底に暗礁伏起潮流之れに激し渦絞旋轉一瀉して流る此岸上疊壁炮門を開く蜂窠の如し炮門の如く見ゆるものは是れ北米合衆國の軍艦か炮撃したる彈丸の跡なり

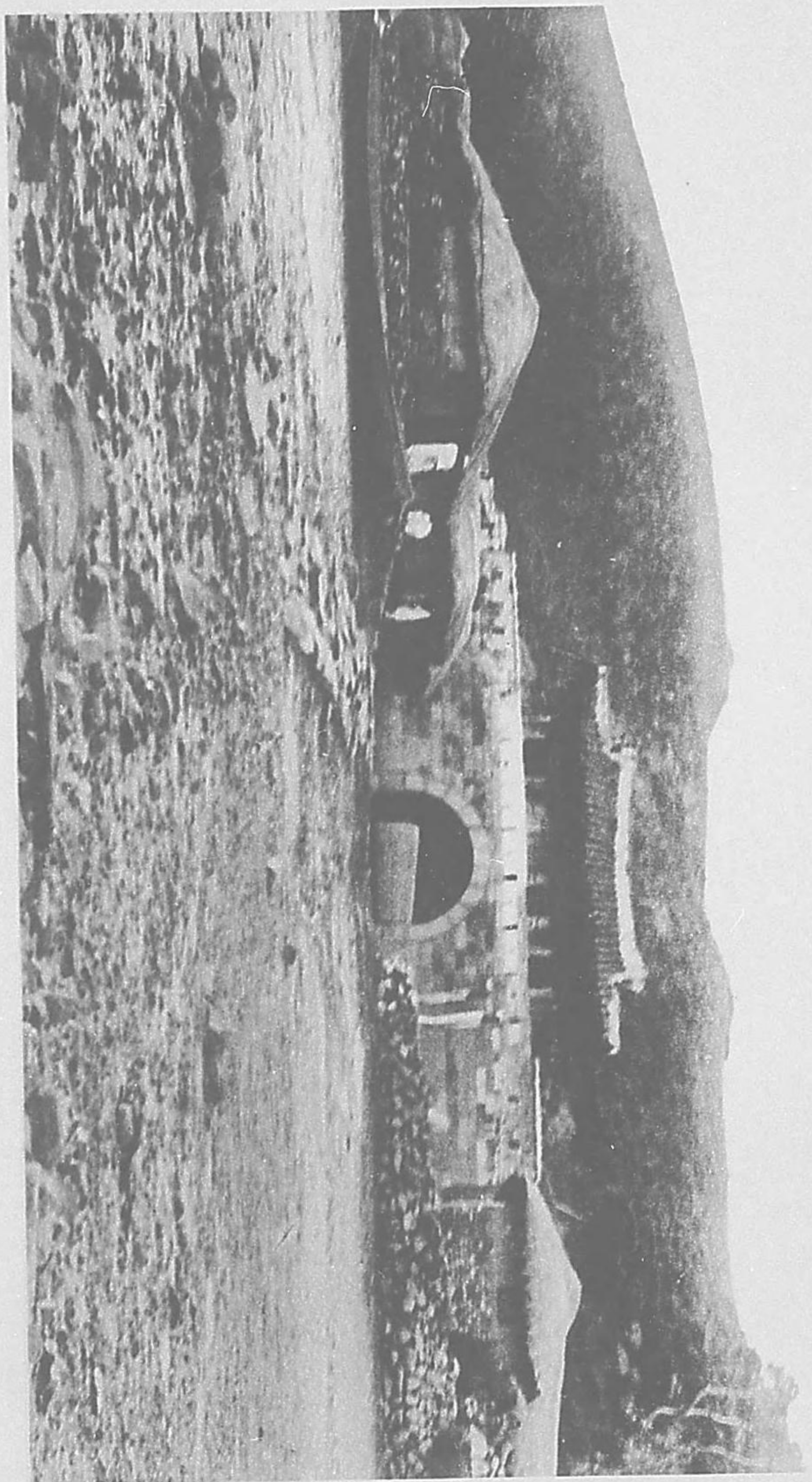
離宮樓門

江華島摩尼山の半腹樓臺數棟あり疊壁を以て圍む是れ江華の離宮にして國王避難の地とす



江華島

江華島の控海門ハ文珠城の西門にして鎮城と相對シ漢江口
ハて第三の要塞なり然れども兩寨とも法蘭西の軍艦が炮擊
して之れを焼きし事あり鼎足山城と云ふあり江華島の東北
ハして孫石項の上流にあり法蘭西軍艦江華を炮擊せし時山
城の守將城内に虎獵師を募り兵卒として法蘭西軍を邀撃シ
大に之を破りたり之れを記事として扁額に書シ樓門ハ掲ぐ
城壁周回九千尺凡半英里計りなり
漢江口の各要塞を過き通津と云ふ所より十五英里を溯れば
金浦に至る金陵衙門と稱シ郡主の廳あり此地近方の冬期雁
鳴數百萬群を爲シ天を覆ふて來る銃獵者の眼を注ぐ所なり



○仁川を發し外國の諸港に達するには最近の港は支那の芝罘日本の長崎なり而して平素定期航海の便ある諸港は芝罘長崎天津上海神戸浦潮斯德橫濱香港桑港等なり仁川は朝鮮王都の海門と云ふべき港なれば各國の軍艦商船出入年々相増し千八百九十年には帆漚の外國商船出入する事千五百八十隻にして清國日本國の船を以て最も多しとす清國に於て招商局の如き上海仁川間及び芝罘仁川間には漚船の往復を初めたり然れども未だ定期に非ず日本の郵船會社の如きは漚船の往復必ず定期を以てし殊に新造の良好船を撰んで航路を三線に定む甲は日本の神戸を發し釜山仁川芝罘天津は往復し乙は神戸を發し釜山元山俄領浦潮斯德に往復す丙は日本長崎を發し釜山元山俄領浦潮斯德に達し又元山釜山より仁川上海を回航し歸路仁川を経て長崎に歸る日本郵船會社の航海業は盛大にして東洋諸港に未だ其比を見ず仁川よ

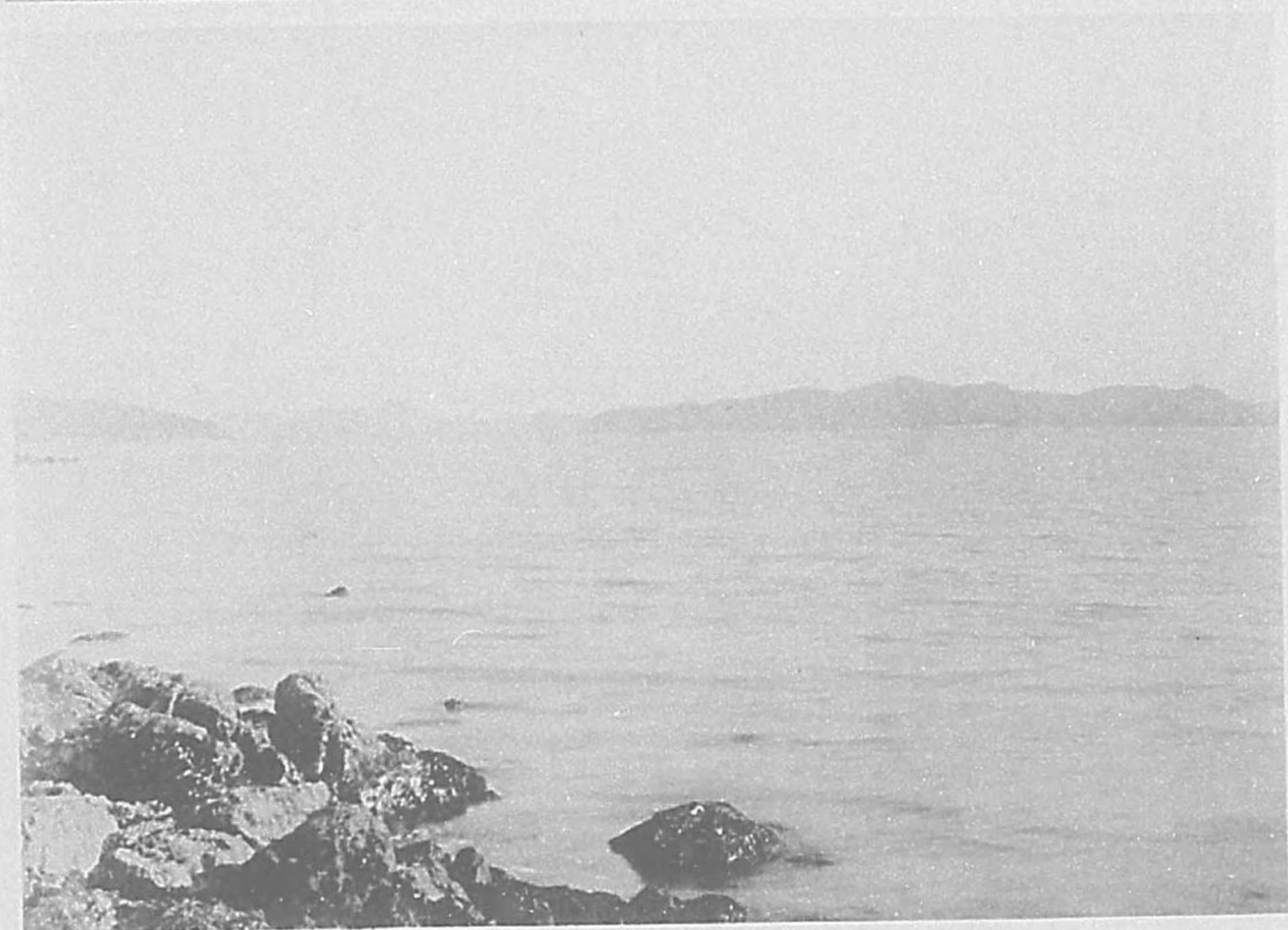
り釜山に航行するの海上は支那黄海の東方にして朝鮮叢島と名つくる島嶼中を航行す南に濟州島を望み日本對馬島に向つて朝鮮海峽を過り日本海に入らんとす此所釜山港あり此海峽には寒暖二種の潮流あり其暖潮は熱帶の潮流「マニラ」及び臺灣の間支那の濱岸に支へられて北折して三支流に分る一は北東に向て日本南岸に沿ひ更に東流するものは黒潮と云ひ一は對馬潮流と云つて則ち日本朝鮮の間を通過し日本海に入る一は支那沿岸より朝鮮の西岸に沿ふて流るものは是なり其冷潮は「ベーリング」及び「オホック」海より起り數支に分る其一は日本の千島北海道の島嶼に沿ふて日本東岸に流れ來る其二は北「サハリン」島と「アムール」地方より日本海に入て俄領滿洲の東岸及び朝鮮東方の濱岸に沿ふて殆んど釜山の海峽に達す此冷暖二種の潮流朝鮮海峽に至つて相會す且朝鮮海峽の群島と唱ふるもの多く海面岩礁起伏殊に朝鮮

政府の燈臺を設けず浮標を置かず暗夜又ハ海霧濛々たる時の海面熟知の航海船に非らずんば其危険恐るべき事あり

古爾島表村

同 鎮村

全羅道所屬にして所安群島中なり長直路古爾島の村落にして漁業の収益ある島嶼なり



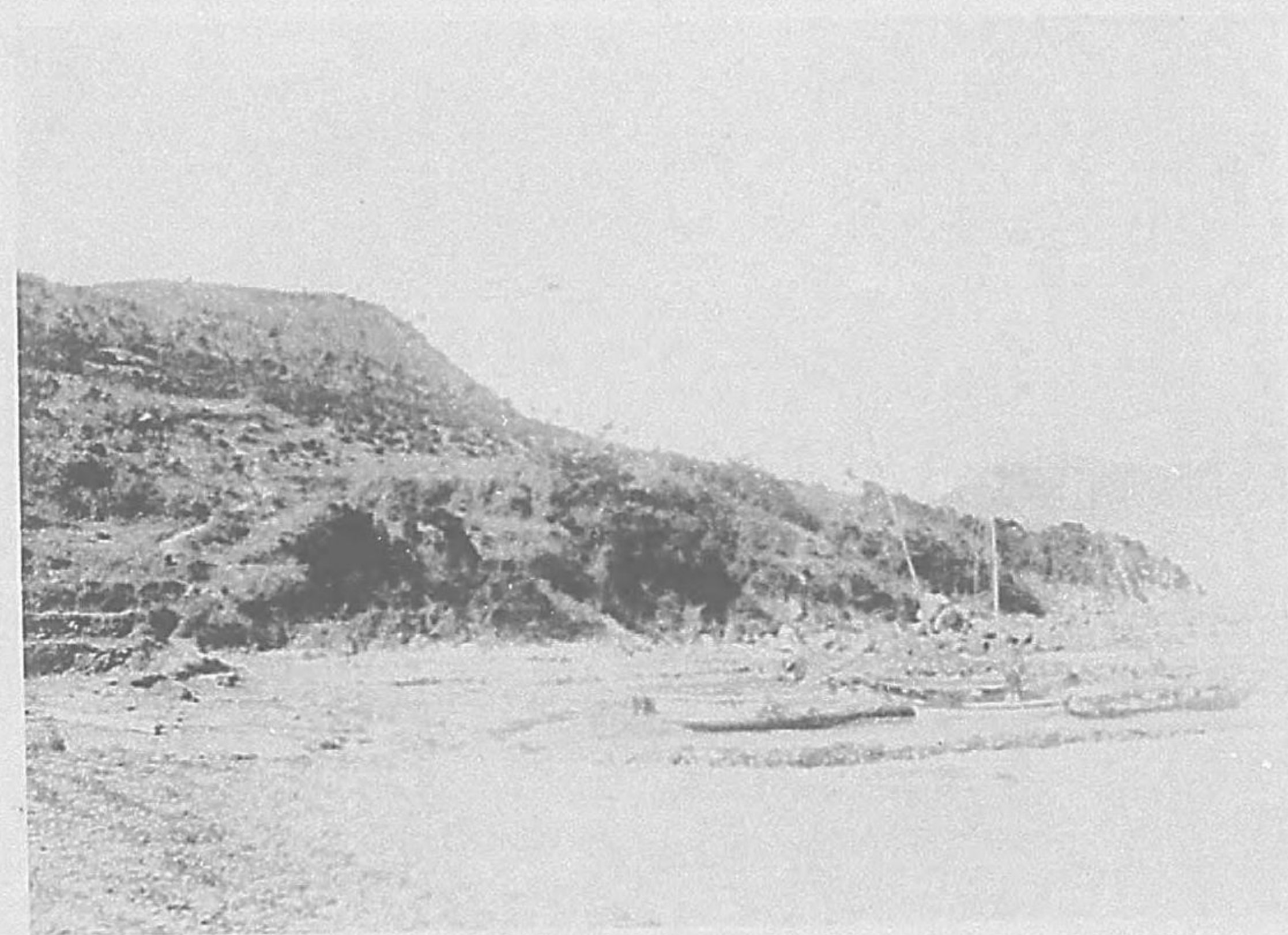
馬島繫船所入口

同海面

同碇泊所出帆口

全羅道所屬所安島中の一島よして漁業者の集まる地なり
所安島

群島中の幹島なり漁業者水産製造を爲す所なり

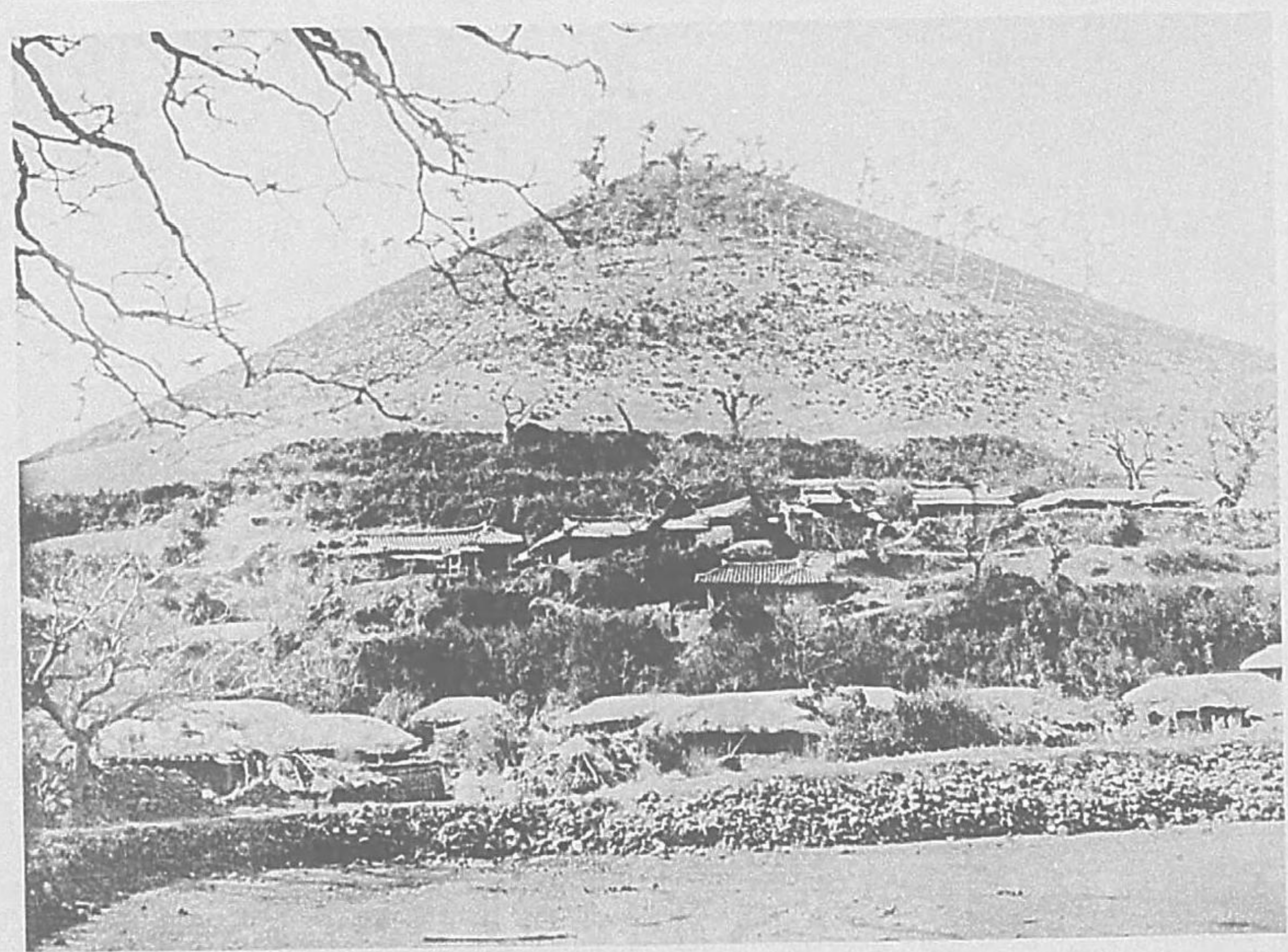




所安島民家

同碇泊所

り 所安島の漁村にして碇泊すへき海面出帆に便なる方面等な



所安港

港内并に入港するの目標山の麓なり

濟州島州城遠景

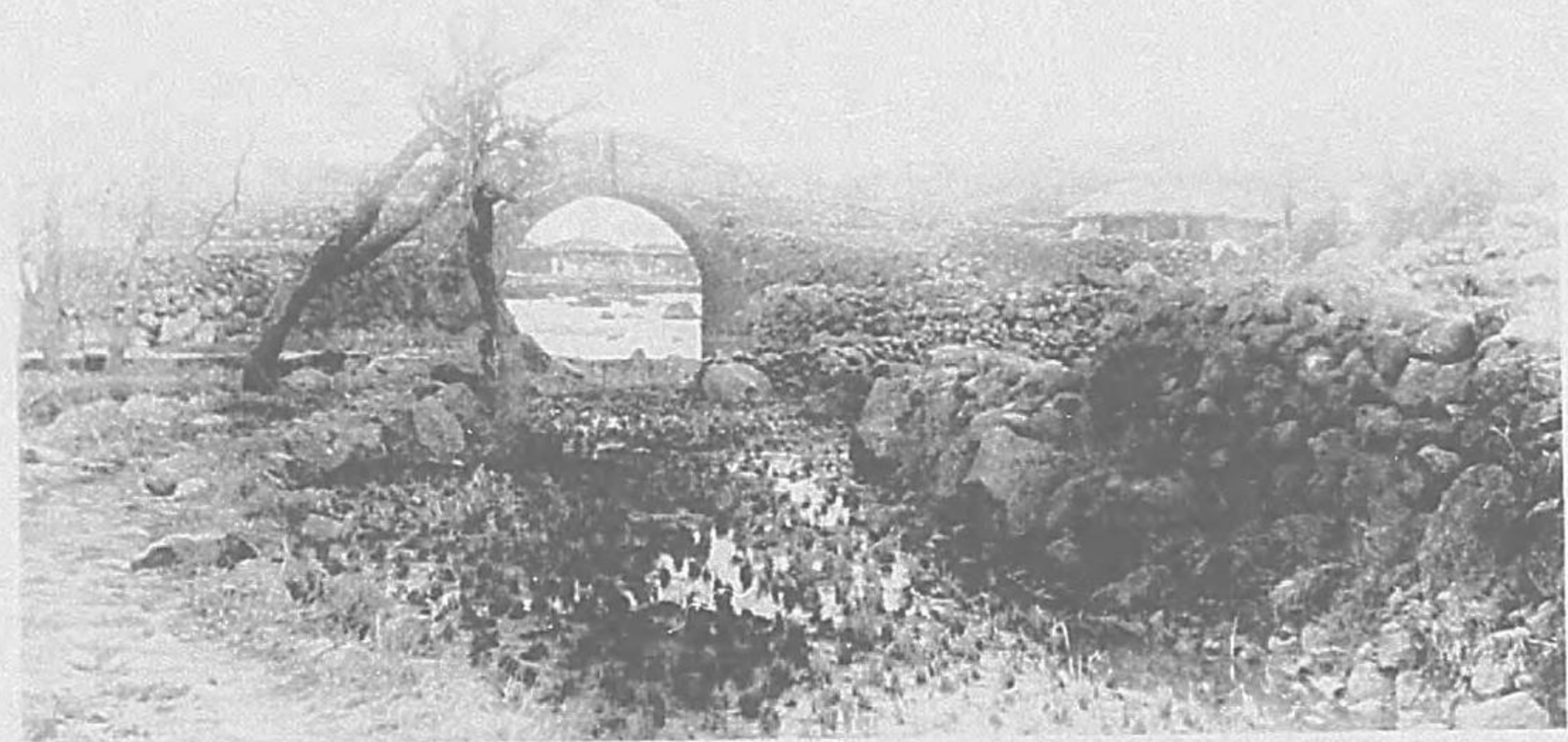
濟州島は朝鮮海峽中第一の大島にして長さ貳百五拾英里上古は朝鮮の版圖に非ず日本の五島列島に近しといへとも日本の有にも非ず一の獨立國たりしか島民慄悍にして能く戦ひ能く守り朝鮮の兵と屢々戦ふたり高麗の國王甚た刻苦して酋長の居城を攻落し朝鮮の版圖に移し入れたり



濟州島監理使衙門

同西門外石橋

濟州島の大島にして古代獨立の一國たりしを以て今に到るも朝鮮にては門閥家の人を撰んで監理使とし鎮臺兵を置く監理使衙門に列を爲したる中央の朝鮮人は監理使李圭遠にして當時朝鮮門閥の人傑なり其他は日本八重山艦の士官及び朝鮮國官吏なり



同港内の景

此地水産は富む外國人も來て漁業を爲すもの多し港内剃刀
阜頭より本島の中央にある漢羅山を望む此山は此の海峡中
有名の山岳にして遙かの海面よりも之れを望んで濟州島な
るを知る

巨文島

巨文島は曾て英吉利軍艦が碇泊し及び揚陸せし軍人につき
東洋各國に囂傳せし事ありし島なり